

令和3年度

事務の管理及び執行の状況に
関する点検及び評価報告書

令和4年8月

かほく市教育委員会

はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和3年度のかほく市教育委員会の活動を振り返るとともに、「かほく市教育振興基本計画」に基づき具体的施策について、自ら事務事業の点検及び評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々からの意見もいただいて作成したものです。

かほく市教育委員会としては、今の時代を生き抜き、多様化する課題に対し主体的に解決できる力を身につけ、次代のかほく市を担う人材をしっかりと育てていくため、計画期間を令和元年度から令和5年度までの5年間とする「第2期かほく市教育振興基本計画」の着実な実現に向かって、引き続き、「自ら考え ともに学び 明日をひらく人づくり」を目指すため、創造力と生きがいを育む教育の推進に努力してまいります。

令和4年8月

かほく市教育委員会

目 次

I	教育委員会の活動状況	1
	(1) 総合教育会議の開催・審議状況	1
	(2) 教育委員会会議の開催・審議状況	1
	(3) 教育委員の主な活動状況	4
II	点検及び評価	6
	(1) 総括	6
	(2) 前年度の学識経験者からの主な意見に対する取組	9
	(3) 点検及び評価の方法	11
	(4) 学識経験者の主な質問・意見等	11

《第2期かほく市教育振興基本計画に基づく具体的な取組内容・成果及び今後の方向性》

■基本目標1 確かな学力をはぐくみ一人一人の個性を大切にします

基本的方向1- (1) 確かな学力の育成	14
①新学習指導要領の着実な実施と外国語教育の強化	
②学力調査等による現状把握と学習指導方法の改善	
③家庭学習の定着と充実	
④認定こども園と小学校、小学校と中学校との連携強化	
基本的方向1- (2) 豊かな心と社会の変化に対応できる資質・能力の育成	19
①道徳教育の推進	
②自己肯定感の育成と発達段階に応じたふるさとキャリア教育の推進	
③学校における体験活動や読書活動の推進	
基本的方向1- (3) 児童生徒の体力増進と運動能力の向上	22
①学校における運動機会の充実	
②健康づくり、体力向上をめざす教育の充実	
③安全でおいしい給食の提供、食育の推進	
基本的方向1- (4) 新しい時代の教育に向けた学校指導体制の整備	25
①教職員の資質の向上と組織的な学校経営	
②教育センターにおける時代の変化に対応した研修の実施	
③教職員の働き方改革の推進	
基本的方向1- (5) 多様なニーズに対応した教育機会の提供・支援	29
①特別支援教育の充実	
②いじめ等への対応の徹底	
③不登校児童生徒等への自立支援	
④教育相談体制の充実	
⑤経済的な理由による子供たちの就学支援	
基本的方向1- (6) 安心して学べる教育環境の整備・充実	34
①学校施設の長寿命化の推進	
②新たな学びを実現するICT環境等の整備	
③通学路の安全対策と安全・防災教育の充実	

■基本目標 2 家庭・地域・学校が連携し教育力の向上に取り組みます

基本的方向 2- (1) 家庭の教育力の向上	37
①親学びへの支援と家庭教育に関する学習の推進	
②親子による体験活動などの促進	
③インターネット社会に対応する力の向上	
基本的方向 2- (2) 社会教育の活性化による地域教育力の向上	40
①地域に活力を与える人材の育成	
②社会教育団体の再興と活性化	
③連携と協働による社会教育の推進	
基本的方向 2- (3) 学校を核とした家庭・地域との連携の強化	42
①学校を核とした活動の充実	
②「支援」から「連携・協働」へとつながる意識の醸成	
③地域課題解決のための多世代が関わる体制づくり	

■基本目標 3 生涯にわたって学ぶ意欲を持ち豊かな人間性を育成します

基本的方向 3- (1) 人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進	44
①「学び」を活かす機会と活動の充実	
②生涯学習に関する情報の発信	
③市民大学校による学びの充実	
基本的方向 3- (2) 読書環境の充実と生涯学習拠点としての機能強化	47
①生涯学習拠点施設としての機能の強化	
②子供の読書活動の推進	
③市立図書館と学校図書館との連携	
基本的方向 3- (3) 博物館活動の充実と情報発信	50
①石川県西田幾多郎記念哲学館の充実	
②うみっこらんど七塚の充実と「海と渚の博物館」機能の強化	
基本的方向 3- (4) 生涯学習活動を支える環境の整備・充実	52
①生涯学習センターの運営管理	
②地域交流施設などの有効活用	

■基本目標 4 郷土の自然、歴史、文化を継承し芸術文化活動の充実を図ります

基本的方向 4- (1) ふるさと学習の充実	54
①ふるさと「かほく市」を学び知る機会の提供	
②かほく市ゆかりの人物に関する情報の発信	
基本的方向 4- (2) 芸術文化活動の促進と支援	56
①芸術や文化活動に触れる機会の提供	
②文化活動団体・個人への支援	
基本的方向 4- (3) 未来に伝える文化財の保護と活用	58
①文化財を活用した学習の充実	
②文化財の公開と活用の促進	
③文化財の適切な保護と管理	

■基本目標 5 豊かなスポーツライフの創造をめざします

基本的方向 5- (1) 生涯にわたるスポーツ活動の振興	61
①スポーツへの参画人口の拡大	
②運動習慣の定着とスポーツを通じた生きがいのづくり	
③女性活躍の促進と障がい者がスポーツに親しめる環境の整備	
基本的方向 5- (2) 競技スポーツの強化と底辺の拡大	64
①競技力向上にむけたスポーツ機会の充実	
②指導体制の充実	
③競技選手への支援の充実	
④学校教育と連携した運動習慣の確立と体力の向上	
基本的方向 5- (3) スポーツ団体の育成支援と連携	68
①(仮称)かほく市スポーツ協会設立にむけた調整の実施	
②スポーツ少年団への支援	
③体育協会への支援	
④地域スポーツクラブへの支援	
⑤高齢者の運動に対する活動支援	
基本的方向 5- (4) スポーツ活動を支える環境の整備・充実	73
①スポーツ施設の整備と機能の充実	
②スポーツ施設の効率的な管理・運営	
③スポーツによる地域活性化の促進	

■基本目標 6 異なる文化や価値観を尊重し世界に通じる人づくりを進めます

基本的方向 6- (1) 多文化共生社会および国際化に対応した教育の充実	76
①国際交流事業の推進	
②多様な文化に対する理解の推進	
③実践的な外国語教育の充実	
基本的方向 6- (2) 人権教育の推進	79
①学校教育における人権教育の推進	
②社会教育における人権教育の推進	

III 資料	80
--------	----

I 教育委員会の活動状況

(1) 総合教育会議の開催・審議状況

令和3年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に定める総合教育会議を開催し、2件の議件について協議しました。

◎令和3年度 総合教育会議開催状況

開催日	協議・調整事項
令和3年12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全対策について ・GIGAスクール構想の現状と今後について

(2) 教育委員会会議の開催・審議状況

令和3年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、及び「市長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任する規則」の規定に基づき、教育委員会会議を12回開催し、議案22件について審議しました。

また、教育委員会の新制度以降、会議の審議内容について、会議録をホームページに公開し、開かれた教育委員会を目指しました。

◎令和3年度 教育委員会会議開催状況

回(開催日)	審議決定事項
令和3年第4回 (令和3年4月28日)	議案第12号 かほく市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第13号 かほく市特別支援教育推進委員会委員の委嘱について 議案第14号 かほく市公民館長の任命について 議案第15号 かほく市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第16号 かほく市少年愛護センター少年愛護員の委嘱について
	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度かほく市事務組織図(教育委員会)について ・令和3年度教育事務所学校訪問における市教委参加の日程調整について ・令和3年度河北郡市教育委員会連合会総会(書面表決)について ・令和2年度かほく市教育センター事業報告について ・令和2年度第4回社会教育委員会議の結果について ・令和3年度姉妹都市交流青少年派遣事業について
令和3年第5回 (令和3年5月26日)	議案第17号 令和2年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校制度について ・令和3年度かほく市教育委員会学校訪問(前期)の開催について ・東京2020オリンピック聖火リレーかほく市開催について ・かほく市総合体育大会開会式の中止について

回（開催日）	審 議 決 定 事 項
令和3年第6回 (令和3年6月23日)	<p>議案第17号 令和2年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続審査）</p> <p>議案第18号 かほく市立学校小規模特認校制度に関する規則の制定について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年第2回議会定例会提出議案について ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費6月認定結果について ・ 令和3年度奨学資金支給に係る奨学生の決定について ・ 令和3年度コミュニティ・スクールプランに係る査定結果について ・ 聖火リレートーチ展示について ・ 第73回石川県民体育大会の開催中止について
令和3年第7回 (令和3年7月19日)	<p>議案第17号 令和2年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続審査）</p> <p>議案第19号 令和4年度使用中学校用教科用図書（社会 歴史的分野）の採択について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費7月認定結果について ・ 令和3年度特別支援教育奨励費支給決定結果について ・ 令和3年度第2回社会教育委員会議の結果について
令和3年第8回 (令和3年8月24日)	<p>議案第17号 令和2年度かほく市教育委員会点検及び評価報告書について（継続審査）</p> <p>議案第20号 かほく市教育委員会表彰選考委員会委員の委嘱について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年第3回議会定例会提出予定議案について ・ 令和3年度北信越中学校総合競技大会等の成績について
令和3年第9回 (令和3年9月29日)	<p>議案第21号 令和3年度かほく市教育委員会表彰被表彰者の決定について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費9月認定結果について ・ 市長による特別授業「かほく市のまちづくり」の実施について ・ かほく市生涯学習フェスティバルの実施について ・ 新規外国語指導助手及び新規国際交流員の紹介について ・ 管理担当専門員・指導主事・教育センター所長からの前期活動報告について
令和3年第10回 (令和3年10月21日)	<p>議案第22号 かほく市学校運営協議会委員の任命について</p> <hr/> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費10月認定結果について ・ 令和3年度第3回社会教育委員会会議の結果について ・ 第18回かほく市成人式について ・ 第18回かほく市立志式について ・ かほく市史編さん委員会について

回（開催日）	審 議 決 定 事 項
令和3年第11回 (令和3年11月25日)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年第4回議会定例会提出予定議案について ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 11月認定結果について ・ 総合教育会議における協議調整事項について
令和3年第12回 (令和3年12月15日)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度かほく市特別支援教育推進委員会の結果について[非公開案件] ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 12月認定結果について ・ かほく市民交流スポレクサーキット大会結果について ・ 第18回市制施行記念継走大会について
令和4年第1回 (令和4年1月19日)	議案第1号 令和4年度かほく市教育目標について ----- 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第18回かほく市成人式参加状況について
令和4年第2回 (令和4年2月22日)	議案第1号 令和4年度かほく市教育目標について（継続審査） 議案第2号 かほく市立学校教職員多忙化改善取組方針について ----- 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年第1回議会定例会提出議案について ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 2月認定結果について ・ 第4回かほく市民交流スポレクサーキット大会について ・ イオンモールかほく連携事業昔遊び体験について ・ 管理担当専門員・指導主事・教育センター所長からの後期活動報告について
令和4年第3回 (令和4年3月24日)	議案第3号 かほく市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 議案第4号 かほく市立学校管理規則の一部を改正する規則について 議案第5号 かほく市体育施設条例施行規則及びかほく市立学校施設利用条例施行規則の一部を改正する規則について 議案第6号 かほく市立学校の学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について 議案第7号 かほく市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第8号 かほく市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第9号 かほく市公民館長の任命について 議案第10号 石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員会委員の委嘱について 議案第11号 かほく市学校運営協議会委員の任命について ----- 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費 3月認定結果について ・ 小学校 35人以下学級（市独自施策）の取扱いについて

(3) 教育委員の主な活動状況

◎教育委員が出席した主な活動等

年 月 日	活 動 内 容
令和 3 年 4 月 2 日	令和 3 年度初任・新任教職員辞令交付式
令和 3 年 5 月	令和 3 年度河北郡市教育委員会連合会定期総会（書面開催）
令和 3 年 5 月 1 1 日	石川縣市町教育委員会連合会第 1 回教育委員代表者会議
令和 3 年 5 月 1 1 日	令和 3 年度石川縣市町教育委員会連合会定期総会
令和 3 年 5 月 2 7 日	令和 3 年度かほく市奨学生選考委員会
令和 3 年 6 月 2 1 日	指導主事訪問（外日角小学校）
令和 3 年 6 月 2 9 日	指導主事訪問（高松中学校）
令和 3 年 7 月 8 日	指導主事訪問（河北台中学校）
令和 3 年 7 月 1 9 日	かほく市教育委員会点検及び評価報告書に関する意見懇談会
令和 3 年 7 月 2 8 日	北信越中学校総合競技大会・全国中学校体育大会・北陸吹奏楽コンクール出場選手激励会
令和 3 年 7 月 3 0 日	石川縣市町教育委員会セミナー
令和 3 年 9 月 2 2 日	石川縣市町教育委員会連合会第 2 回教育委員代表者会議
令和 3 年 1 0 月 4 日	指導主事訪問（高松小学校）
令和 3 年 1 0 月 8 日	指導主事訪問（金津小学校）
令和 3 年 1 0 月 1 5 日	石川縣市町教育委員会連合会研究大会（野々市市）
令和 3 年 1 0 月 3 0 日	かほく市教育委員会表彰式
令和 3 年 1 1 月 4 日	指導主事訪問（七塚小学校）
令和 3 年 1 1 月 4 日	市長による特別授業「かほく市のまちづくり」（高松中学校）
令和 3 年 1 1 月 8 日	市長による特別授業「かほく市のまちづくり」（宇ノ気中学校）
令和 3 年 1 1 月 1 2 日	指導主事訪問（宇ノ気小学校）
令和 3 年 1 1 月 1 5 日	市長による特別授業「かほく市のまちづくり」（河北台中学校）
令和 3 年 1 1 月 1 8 日	指導主事訪問（宇ノ気中学校）
令和 3 年 1 2 月 1 5 日	総合教育会議
令和 4 年 1 月 9 日	第 18 回かほく市成人式
令和 4 年 3 月 1 1 日	かほく市立中学校卒業式（規模縮小）
令和 4 年 3 月 1 7 日	かほく市立小学校卒業式（規模縮小）
令和 4 年 3 月 2 9 日	かほく市立小中学校教職員離任式

◎教育委員の臨席を規模縮小等で取りやめた主な事業等

年 月 日	活 動 内 容
令和 3 年 4 月 7 日	令和 3 年度かほく市立小中学校入学式
令和 3 年 6 月 1 2 日～	令和 3 年度加賀地区中学校体育大会（～6 月 21 日）
令和 3 年 6 月 2 6 日～	令和 3 年度石川県中学校総合体育大会（～7 月 23 日）
令和 3 年 9 月 2 5 日	小学校運動会（高松小・大海小・外日角小・金津小）
令和 3 年 9 月 2 8 日	中学校体育祭（高松中）
令和 3 年 9 月 2 9 日	中学校体育祭（河北台中・宇ノ氣中）
令和 3 年 1 0 月 2 日	小学校運動会（宇ノ氣小）
令和 3 年 1 0 月 1 6 日	小学校運動会（七塚小）
令和 3 年 1 0 月 2 7 日	いしかわ道德教育推進事業研究発表会（外日角小）
令和 4 年 3 月 1 5 日	第 18 回かほく市立志式

◎新型コロナウイルスの影響のため、中止となった事業等

年 月 日	活 動 内 容
令和 3 年 6 月	第 76 回寸心忌・献花式・第 67 回石川県学童話し方大会
令和 3 年 6 月	第 17 回かほく市総合体育大会開会式
令和 3 年 6 月	かほく市小学校音楽会
令和 3 年 8 月	第 73 回石川県民体育大会
令和 3 年 1 0 月	かほく市小学校体育大会
令和 3 年 1 0 月	東海北陸 6 県市町教育委員会連合会理事総会（岐阜県）
令和 3 年 1 0 月	かほく市 P T A 大会
令和 3 年 1 1 月	河北郡市教育委員会連合会研修会
令和 4 年 3 月	第 18 回かほく市制施行記念継走大会

II 点検及び評価

(1) 総括

◇目的

かほく市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

◇点検評価の対象及び方法

点検評価の対象は、令和3年度に実施した教育委員会所管の主要な事業とし、その取組状況と成果について教育委員会が点検評価を行いました。

◇事業評価

第2期かほく市教育振興基本計画（計画期間：令和元年度～令和5年度）に基づく施策を迅速かつ的確に推し進めるためには、施策の基本的方向に掲げた様々な具体的な取組の実施状況を常に把握し、具体的な取組に示した104項目の数値目標に対し、PDCAサイクルによる進行管理を行います。

具体的な取組に示した数値目標項目の達成状況は、次のとおりです。

基本目標	数値目標 項目数	数値目標 測定不能	改善傾向 項目数	目標達成 項目数
【基本目標1】 生きる力をはぐくみ 一人一人の個性を大切にします	54	4 (24)	20 (9)	13 (7)
【基本目標2】 家庭・地域・学校が連携し 教育力の向上に取り組みます	9	0 (0)	2 (2)	1 (1)
【基本目標3】 生涯にわたって学ぶ意欲を持ち 豊かな人間性を育成します	15	0 (3)	3 (1)	2 (1)
【基本目標4】 郷土の自然、歴史、文化を継承し 芸術文化活動の充実を図ります	8	0 (0)	0 (0)	5 (4)
【基本目標5】 豊かなスポーツライフの創造を めざします	15	0 (2)	5 (3)	0 (1)
【基本目標6】 異なる文化や価値観を尊重し 世界に通じる人づくりを進めます	3	0 (1)	3 (0)	0 (0)

() は前年度数値

◇令和3年度 新たに取り組んだ施策等の概要

- ・GIGAスクールにおける学びの充実を図るため、(令和3年度から2カ年間)高松中学校区を「小中連携ICT教育研究推進校」に指定し、児童生徒1人1台端末やデジタル教材を活用した効果的な指導のあり方の調査研究を実施した。
- ・児童生徒が1人1台端末を学校から家庭へ持ち帰った際のセキュリティ対策として「フィルタリング(有害サイトアクセス制限)」を導入して強化を図り、また、ICT化が進む中で著作物の円滑な利活用を目的とした「授業目的公衆送信補償金制度」を導入し、様々な著作物が教材として利用可能となるよう整備した。
- ・1人1台端末や学校に整備されているICT機器に関するトラブル対応相談や故障端末に係るメーカーへの修理依頼等及びネットワーク運用についての現場運用を円滑に行うため、専門的な知識・ノウハウを保有する専門員を配置することにより、「ICTサポート体制の強化」を図った。
- ・石川県市町教育委員会連合会の共同調達により石川県内全市町に「統合型校務支援システムの導入」を図った。導入目的として、①校務の効率化②教育の質の向上③セキュリティの強化が挙げられ、教職員の負荷の軽減や教材研究等にかかる時間の確保、また、児童生徒とふれあう時間の確保に繋がられるよう整備体制を整えた。
- ・学校給食事業として、毎月1回「ふるさと給食の日」として地元の食材及び加工品を提供した(予算措置は産業振興課)。
- ・新しい生活様式を踏まえた安心・安全な学習環境等の整備として、高松小学校のトイレ洋式化に着手し、夏休み期間で竣工した。今後は計画的に各学校のトイレ洋式化を整備する。
- ・IT-CATSかほく推進協議会では、プログラミングの基礎等を修了し、より学びたい小学4年生以上を対象にプログラミングやものづくりを楽しむ場として「K-Lab(ケーラボ)」を開設した。
- ・令和2年度に教育委員会から市社会教育委員会に諮問した「公民館を核とした社会教育活動の活性化」について、市社会教育委員会では、答申に向け、公民館の現地庁舎や委員に対する書面による意見聴取などを行ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、具体的な情報収集や勉強会、先進地視察などの企画ができなかったことから、令和4年度に継続審議することとした。
- ・令和3年10月に新たな国際交流員が着任され、中断している姉妹都市交流事業を継続するため、中学生とメスキルヒ市の生徒がEメールで交流する「Eメールエクステンジプログラム」を実施した。
- ・石川県国際交流協会との共催により、外国につながる子ども支援として、小学校入学前の外国人親子4組に「親子支援教室」を開催し、入学前の準備や日本の学校文化の理解を深め、必要に応じて日本語の学習支援の情報提供を行った。

- ・令和4年度、西田幾多郎記念哲学館開館20周年を迎えるにあたり、この20年間に新収蔵した資料の中から、選りすぐりの未公開資料を展示する「20年間の新収蔵品展」を令和4年3月23日から開催した。（令和4年9月25日まで展示）また、開館20周年記念事業を実施するための企画と準備を行った。
- ・中央図書館開館10周年を記念し、絵本作家を招いて絵本ライブを開催した。あわせて10年間の図書館事業や友の会だよりの展示を行った。
- ・かほく市史編さん事業の一環として、かほく市史編さん委員会、かほく市史編集専門委員会を組織し、かほく市高松産業文化センター内に市史編さん室を整備した。
- ・（仮称）かほく市総合体育館整備事業について、令和6年4月の供用開始を目指し、事業者である㈱PFIアリーナによる基本設計が完了し、引続き実施設計を行った。
- ・スポーツ施設整備計画に基づき、宇ノ気南部体育館長寿命化・大規模改修工事を行い、改修にあわせて「宇ノ気南部学童保育室」を設置した。
- ・スポーツ施設整備計画に基づき、アクロス高松・屋根等長寿命化改修工事、うのけ総合公園陸上競技場の第3種公認更新工事を実施した。
- ・スポーツによる地域活性化に取り組むためのしくみとして、かほくスポーツ委員会（仮称）の設置を目指すべく、ワークショップによる検討、先進地視察等を行い、基本計画（案）を取りまとめた。

(2) 前年度の学識経験者（東谷正巳氏・中谷良子氏・松本吉雄氏）からの主な意見に対する取組

【社会教育活動・地域の活性化について】

主な意見	左記に対する取組内容
<p>「公民館を核とした社会教育活動の活性化」について、各地域に集会場や公民館といった市民が集まる場所があるので、是非そこを活用し、誰もが利用でき、また、気軽に入出りできるような場所にならないか。 地域にある施設が地域活性化の拠点となるような取組を進めてほしい。</p>	<p>少子化や住民間交流の低下などにより、地域活動力が低下しているため、「公民館を核とした社会教育活動の活性化」について、社会教育委員会において検討しており、その検討結果を踏まえ、各地域の特性・特徴を活かした取組を進めます。 また、地域の活性化については、「スポーツコミッション」によるスポーツでの持続的なまちづくりや地域活性化の推進についても検討している。社会教育や社会体育においても地域経済が回る仕組みを考え、市民がやりがいを持って取り組めることが大切であり、地域の活性化に繋がると考えている。</p>
<p>公民館については、地域の伝統芸能とタイアップさせ、公民館を利用するなど、核となる組織づくり、担い手の育成が重要である。</p>	
<p>白尾公民館は、児童館が併設されており、公民館がとても身近な存在で、子どもが絶えない施設である。児童館でも色んな行事が行われていることから、地域の文化を取り入れていくと活性化に繋がると思う。</p>	

【体育施設や社会教育施設のあり方について】

主な意見	左記に対する取組内容
<p>金津体育館をリフォームし「こども屋内運動施設あそびの森かほくくる」として生まれ変わった。他の体育施設についても、稼働率や市民が望んでいる施設を総合的に捉えた上で今後のあり方を検討してほしい。</p>	<p>体育施設や社会教育施設については、利用状況や市民ニーズを的確に把握しながら、「かほく市スポーツ施設整備計画」等の長寿命化計画を策定し、随時必要に応じた見直しを行い、施設のバリアフリー化や機能の充実に努めるとともに、老朽施設の転用や集約も図っていく。</p>

【コミュニティ・スクールについて】

主な意見	左記に対する取組内容
<p>市民大学校での親子体験や歴史コースなど良い取組であり今後も続けてほしい。 学校ではコミュニティ・スクールを中心としてその地域に見合った活動を実施されているが、成功体験だけでなく失敗体験も学ばせるべきと思う。</p>	<p>コミュニティ・スクールとして先進的に取り組んでいる良い事例やプラス面を他の学校に広めていくため、令和4年度に（仮称）コミュニティ・スクールシンポジウムを開催することとした。</p>

【通学路の安全点検について】

主な意見	左記に対する取組内容
<p>通学路には、危険箇所が多くあり、子ども達がそれを回避して通学しなければならない。そういった箇所を減らしていくために、どのような取組を行っているのか。</p>	<p>かほく市交通安全プログラムにより通学路上の危険箇所の洗い出しを行い、国交省、県や市の道路管理者・警察等の関係機関と新規要望を中心に18箇所を点検し、各機関が所管する対策を検討した。</p> <p>令和3年度については、横断歩道の移設や白線引き直し等14箇所の対策を実施した。</p> <p>また、グリーンベルトについては新たに松浜地区1,180mの施工を実施した。</p>

【部活動のあり方について】

主な意見	左記に対する取組内容
<p>少子化が進むにつれ、現在ある部活動が成立しない状況にあると思われる。また、スポーツ少年団についても登録数が減少傾向にあると思うがどう対応するのか。</p>	<p>生徒数の減少に伴い教員も減少する。そんな中、部活動顧問として教職員の負担を増やすことのないよう指導した。</p> <p>児童のスポーツ活動については、競技選択の幅と継続可能な環境の保持を図るとともに、活動の仕組みなどを工夫し、魅力あるものになるよう取り組みます。</p>

【教職員の働き方改革について】

主な意見	左記に対する取組内容
<p>これまで以上に教職員の働き方改革を進め、自らの人間性や想像性を高め子ども達に効果的な教育活動が出来る改革が必要である。</p> <p>また、これから教員を目指す者に魅力のある教育、教育の素晴らしさを伝えてほしい。</p>	<p>前年度よりも市費負担職員を増員し、学校現場における教職員の業務負担軽減を図った。重点目標をより具体化し「働き方改革の徹底」から「教職員の超過勤務の縮減」として取り組み、月80時間超えの教職員をゼロにするための工夫を図り、教育の魅力や素晴らしさを次世代に伝えていきたい。</p>

(3) 点検及び評価の方法

点検及び評価は、施策に基づく事業内容と実績を明らかにするとともに、成果と課題などを示している。

また、点検及び評価にあたっては、教育に関し学識経験を有する方として、松本吉雄氏、中谷良子氏、谷内正樹氏から様々な意見や助言を得た。

(4) 学識経験者からの主な意見等

【部活動の地域移行及び地域スポーツのあり方について】

主な意見等
<p>中学校部活動の全国大会が来年度から地域スポーツ団体等も参加できることとなり、関係団体が参加を検討している。また、数年後には部活動の地域移行が一気に加速する。</p> <p>かほく市では、新しい体育館が建設され、スポーツコミッションにも力を注ぐとなると、市内中学校で部活動のあり方を検討する良い時期と考える。</p> <p>小手先の変更ではなく大胆な発想で捉え、中学校の枠を越えて、また、体育館建設を機に一緒に検討を進めていくことを提案する。</p>

【小規模特認校について】

主な意見等
<p>金津小学校の特長について、「自然豊かな環境に恵まれた小規模校」として周知を行っているが、アバウトすぎて魅力に欠ける。</p> <p>例えば、水泳教室に専門的なコーチを付けて取り組むとか、英語教育に力を入れるとかなど、分かりやすい特長を発信することができれば、ここで学びたいと思う児童や保護者も増加するのではないかと思われる。</p>

【学校規模の適正化について】

主な意見等
<p>市内小中学校の児童生徒数については、全体的には少子化の影響により減少傾向にあるが、特に小学校において偏在化が進んでいる現状を踏まえ、今後の児童数の推移見込みに基づいて、学校再編についても検討課題として取り上げていかなければならないのではないか。</p>

【地域教育力の活性化について】

主な意見等

新型コロナウイルスの影響のため、第2期かほく市教育振興基本計画の基本目標における改善傾向、目標達成項目数が低くなっており、中には目標達成がゼロとなっている項目もあるが、この遅れを今後どうやって取り戻すかが重要と考える。

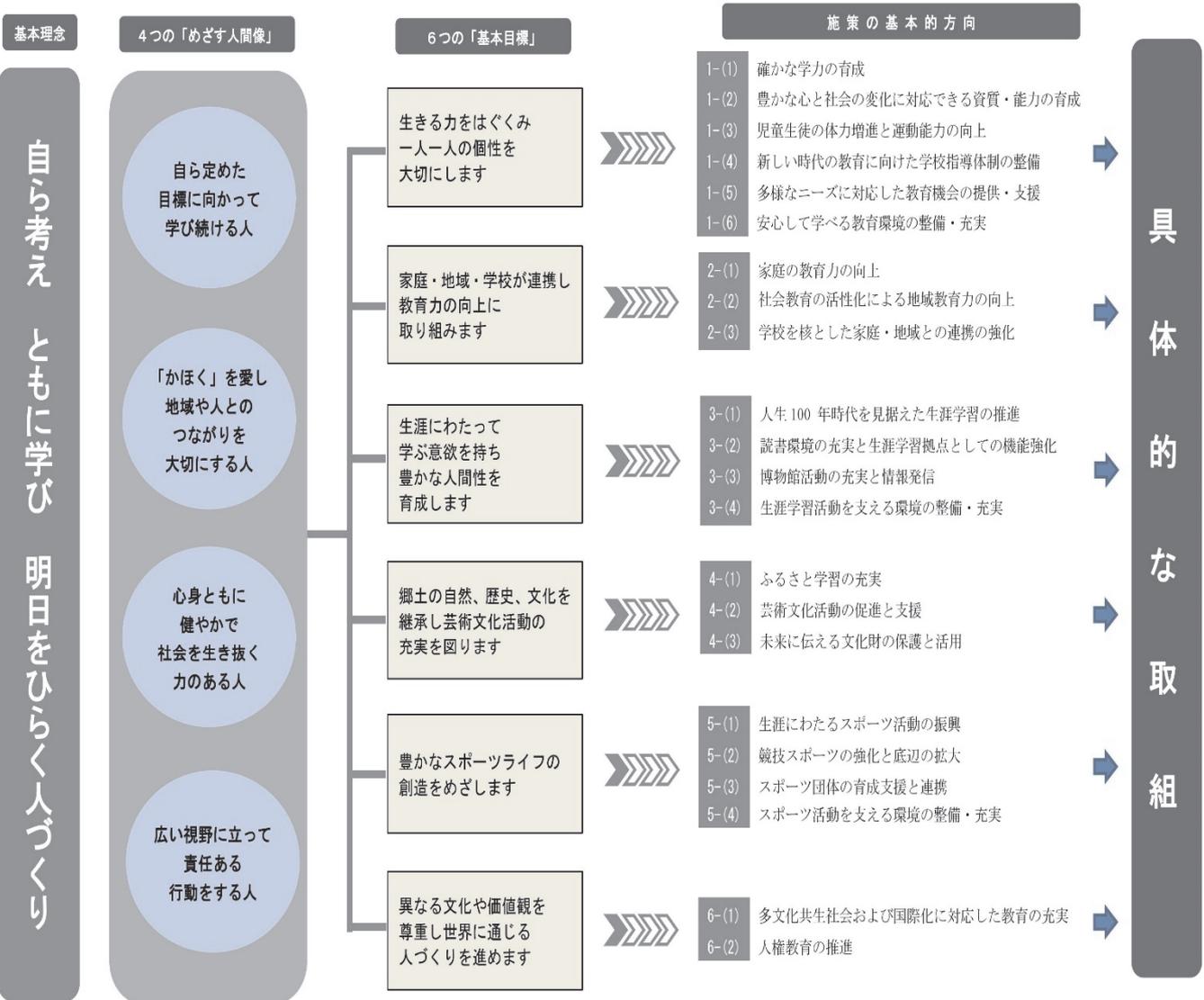
地域も同様に行事がなかなか出来ないことから人間関係やコミュニケーションが取れていないのが現状であるが、地域の活力をどうやって向上させていくかを地域だけではなく学校や教育行政との協働により地域におけるコミュニケーションを復活させる方策を検討する必要がある。

【コミュニティ・スクールの取組について】

主な意見等

社会教育団体の再構築は困難であるが、地域の核となる存在である学校をうまく利用することにより地域を元気にすることも方法の一つと考える。

コミュニティ・スクールの取組を見直し、地域から依頼される行事だけではなく、学校からも児童生徒に地域活動に積極的に参加させるなど相互一体となる取組となるよう工夫を求める。



基本的方向 1 – (1) 確かな学力の育成

① 新学習指導要領の着実な実施と外国語教育の強化

担 当 課

学校教育課

<取組内容・成果>

【外国語教育の取組】

- ・学習指導要領に示された、中学校における4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の習得を目指し、生徒の学習成果と課題を客観的に評価し、中学3年生に向けての授業改善を行うため、2年生全員に4技能試験を実施した。

（英語4技能試験結果の概要）

- ・3中学校とも4技能トータルで全国平均を上回る結果となった。特に、リーディングとライティングの力が強みである。令和2年度の課題であったリスニング（聞く力）については、全国平均を大きく上回ることができた。

<中学生英語4技能試験結果（中学2年生対象）>

	TOTAL	READING	LISTENING	WRITING	SPEAKING
R3 全国参考値	399.0	82.0	93.0	134.0	87.0
令和3年度	443.2	90.4	105.1	149.2	98.7
R2 全国参考値	374.0	75.0	95.0	113.0	84.0
令和2年度	422.0	88.2	95.3	146.2	91.8
令和元年度	403.6	87.4	97.3	126.3	92.1

- ・小学校における学習指導要領において外国語の教科化に伴い、平成30年度から全小学校3年生以上の英語の授業をTT授業で行うため、日本人英語指導助手（5人）を配置している。また、中学校には、外国語指導助手を各中学校に1人配置し、生徒の英語の実践的コミュニケーション能力の基礎を養った（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、外国語指導助手1人が来日できない状況であったが、令和3年度に新たに2人着任し各中学校に1人ずつ配置した。）。

【情報活用能力の育成】

- ・学習指導要領に示されたプログラミング教育については、(株)PFUの協力を得て、全小学校4年生以上において、プログラミング体験学習を実施した。また、その事前研修として、5・6年生担任を対象としたICT活用研修会を開催した（4年生担任を対象とした研修会は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止）。
- ・GIGAスクール構想により、令和2年度で児童生徒1人1台端末、教職員端末の整備が終わり、教職員向けの端末の操作やデジタル教材の操作研修会を各学校単位で実施した。また、県教員総合研修センターにGIGAサポート研修の要請を行い、ICT機器を活用した指導力の向上に取り組んだ。市教育センターでは、市学校教育研究会（情報教育推進部会）と連携し、「オンライン授業の進め方」に関するGIGA研修会を実施した。
- ・学習指導要領の着実な実施に向け、保護者には学校の指導方針がしっかり伝わっていることが重要である。かほく市共通アンケート（保護者対象）において、「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子供たちの様子などがわかりやすく伝わってきますか？」の問いに、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」の両方を含めた回答は小学校では93.4%、中学校では89.1%となっており、対前年度と比較し、新型コロナウイルス感染症による行事の見直しなどの影響もあり、概ね学校からの指導方針等は伝わっていると判断できる。

かほく市共通アンケート（保護者対象）

上段：令和元年7月調査 中段：令和2年8月調査 下段：令和3年7月調査

「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子供たちの様子などがわかりやすく伝わってきますか？」

小学校	高松小	大海小	七塚小	外日角小	宇ノ気小	金津小	計
「当てはまる」	37.8%	60.8%	41.8%	29.6%	34.0%	54.8%	37.9%
	33.3%	66.3%	31.4%	35.0%	30.0%	53.8%	34.8%
	34.3%	61.6%	28.5%	37.3%	31.4%	49.2%	35.1%
「どちらかといえば当てはまる」	59.1%	35.3%	53.4%	61.3%	60.0%	41.1%	56.6%
	60.0%	33.7%	62.7%	58.5%	61.5%	43.1%	58.6%
	58.8%	35.4%	67.6%	54.3%	61.2%	49.2%	58.3%

中学校	高松中	河北台中	宇ノ気中	計
「当てはまる」	29.4%	35.6%	31.9%	32.5%
	38.7%	20.7%	30.6%	29.2%
	34.3%	21.1%	28.3%	27.3%
「どちらかといえば当てはまる」	58.7%	54.8%	59.1%	57.6%
	53.6%	65.9%	54.9%	58.5%
	58.2%	65.1%	61.2%	61.8%

肯定的評価	小	中
R元年度	94.5%	90.1%
R2年度	93.4%	87.7%
R3年度	93.4%	89.1%

【今後の方向性】

- ・令和4年度においては、小学校5年生の担任及び中学校英語科担当教諭を対象とした教科研修会を年3回程度実施し、各学校の指導重点を共有して、小小・小中・中中における縦と横での学校を超えた教科連携を強化します。
- ・プログラミング教育については、これまでの取組を見直し、(株)PFUの協力を得て、全小学校4年生・6年生を対象としたプログラミング体験学習を実施します。
- ・令和3年度からGIGAスクール構想による児童生徒「1人1台端末」の本格的な活用が求められており、令和4年度では、より効果的な活用を目指します。教員のICT活用指導力の向上を図ります。また、GIGAスクールにおける学びの充実を図るため、令和3年度から小中連携ICT教育研究推進校を指定し、児童生徒1人1台端末やデジタル教材を活用した効果的な指導のあり方を調査研究しています。10月、11月には公開研究会を開催し、研究の成果を市全体に発信します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市共通アンケート調査（7月調査） 「学校だよりや学年だより等で学校の指導方針や子供たちの様子がわかりやすく伝わってくる」と回答した保護者の割合	小学校	37.1%	37.9%	34.8%	35.1%	50.0%
	中学校	33.3%	32.5%	29.2%	27.3%	50.0%
英語教育実施状況調査で「英語検定3級程度以上の英語力」を有する生徒の割合	中学校	29.5%	55.0%	65.4%	68.8%	70.0%

② 学力調査等による現状把握と学習指導方法の改善

担当課 学校教育課

＜取組内容・成果＞

- ・教職員の指導方法の改善を図るため、全国学力・学習状況調査、県基礎学力調査、市学力調査の結果を活用し、学力等の現状分析を行い、指導改善につなげた。

	市	県（抽出調査）	国
小学3年生	国語・算数		
小学4年生		国語・算数	
小学5年生	国語・算数		
小学6年生		社会・理科	国語・算数
中学1年生	国語・数学 理科・社会		
中学2年生	国語・数学 理科・社会・英語		
中学3年生		社会・理科・英語	国語・数学

＜全国学力調査等におけるかほく市の平均点と石川県の平均点の比較＞

学年・科目		H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
中学 3年生	国語A（知識）	1.7	1.2	0.7	0.0	2.0	2.0	中止	2.0
	国語B（活用）	5.5	2.0	1.5	0.0	3.0			
	数学A（知識）	3.3	1.0	2.4	▲2.0	2.0	2.0		3.0
	数学B（活用）	3.0	1.0	2.8	▲3.0	3.0			
	英語※H26～H30、R3は県	—	▲2.2	0.3	▲5.1	▲0.7	2.0		0.9

学年・科目		H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
小学 6年生	国語A（知識）	▲0.1	3.1	0.6	4.0	▲1.0	1.0	中止	3.0
	国語B（活用）	▲0.4	0.9	1.3	4.0	2.0			
	算数A（知識）	▲1.5	2.9	1.6	1.0	0.0	▲1.0		1.0
	算数B（活用）	▲4.2	2.3	2.1	2.0	1.0			

- ・市独自事業として小学校5年生と6年生において、35人以下学級を実施することにより、全ての小学校で35人以下学級を実現し、児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことで、児童が落ち着いて学習に取り組むことができた。

＜35人以下学級実現のための講師配置状況＞

	講師採用数	配置校	備考
平成25年度	2人	高松小(1)・宇ノ気小(1)	小学校5年を対象
平成26年度	3人	高松小(2)・宇ノ気小(1)	小学校5・6年を対象
平成27年度	2人	高松小(1)・宇ノ気小(1)	〃
平成28年度	2人	七塚小(1)・宇ノ気小(1)	〃
平成29年度	2人	高松小(1)・七塚小(1)	〃
平成30年度	1人	高松小(1)	〃
令和元年度	2人	外日角小(1)・宇ノ気小(1)	〃
令和2年度	1人	宇ノ気小(1)	〃
令和3年度	1人	七塚小(1)	〃

【今後の方向性】

- ・ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めます。

- ・国や県が実施する学力や学習状況に関する調査に加え、引き続き、市独自の学力テストを実施し、調査結果の分析により、各学校においては、毎年度、学力向上ロードマップを策定し、学力向上PDCAサイクルを確立するとともに、かほく市学校教育研究会の学力向上部会等を通じて、授業の工夫・改善について、指導・助言します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した学校数	小学校	4校	4校	—	6校	6校
	中学校	3校	2校	—	3校	3校

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

③ 家庭学習の定着と充実

担当課 学校教育課

<取組内容・成果>

- ・かほく市共通アンケート調査（7月調査）で「自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が、小学校は令和2年度と同程度であったが、中学校では、対前年度よりも上回った。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症によってこれまでの生活サイクルの乱れが数値に表れたと推測したが、コロナ禍での生活にも徐々に慣れてきていると推測される。
例年、市学力向上部会（市学校教育研究会組織）が中心となり、各学校が家庭学習の課題や時間について児童生徒が帰宅する前に見通しを持たせたことや「家庭学習カード」を活用することで、保護者に家庭学習への理解や協力を得ることに努めている。
- ・学校教育研究会の生徒指導部会において、インターネット等の利用に関する現状把握、分析、対応策等について検討するとともに、保護者に対して啓発リーフレットを作成配布することにより、ネット等の危険性について啓発した。

【今後の方向性】

- ・児童生徒用端末の家庭への持ち帰りを想定した家庭学習への取組として、一律の課題を与えることにはこだわらず、個に応じた課題を与えたり、児童生徒が自ら選択して取り組むことができるようにしたりするなどの指導を行います。また保護者に対しても、ICTを活用した家庭学習の重要性を理解してもらい、協力を得ることに努めます。
- ・ICTを活用した家庭学習の増加が想定されることから、家庭での情報機器の正しい使い方、動画の視聴やSNSなどの書き込みなど、児童生徒が規則正しい生活が送れるよう指導を強化します。また、小中の連結がスムーズに行われるよう小中で連携してルールを作成し、端末を活用した家庭学習の内容について共通理解を図っていきます。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市共通アンケート調査（7月調査）で「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合	小学校	45.5%	55.3%	46.7%	46.9%	60.0%
	中学校	41.6%	35.9%	28.4%	33.6%	60.0%
かほく市共通アンケート調査（7月調査）で、「平日、メールやライン等のSNSやインターネット等を行っている時間が1時間未満」と回答した児童生徒の割合（※）	小学校	43.2%	53.3%	49.6%	50.4%	80.0%
	中学校	50.0%	38.1%	31.5%	29.9%	80.0%

（※）基本的方向2-(1)③の数値目標と同様

④ 認定こども園と小学校、小学校と中学校との連携強化

担当課 学校教育課

<取組内容・成果>

- ・認定こども園と小学校が、「幼小連携協議会」を開催し、配慮が必要な子供などの情報交換や支援方針などについて理解を深めるとともに、幼児教育と小学校教育の接続について、共通理解・共通行動を図った。

(第1回幼小連携協議会)

期日 令和3年8月20日(金)

内容 実践紹介(木津幼稚園)と令和3年度接続推進計画の作成

(第2回幼小連携協議会)

期日 令和4年3月3日(木)

内容 各小学校区の実践紹介と令和4年度接続推進計画の作成

- ・幼児教育と小学校教育の接続を円滑に行うために、各小学校区の「接続推進計画」を作成し、それに基づく取組を推進した。

- ・小中学校の連携については、中学校区単位で小中9年間を通した児童生徒の育成を目指し、「小中連携研修会(授業参観及び学力向上等に関する協議)」を開催した。

〔高松中校区〕 期日:令和3年11月10日(水)

会場:高松小学校

内容:公開授業・協議(効果的なタブレットの活用など)

〔河北台中校区〕 期日:令和3年11月25日(木)

会場:七塚小学校

内容:公開授業・講演「一人一人が授業に参加し、ともに深める授業づくり」

講師:金沢大学 加藤 隆弘 准教授

〔宇ノ気中校区〕 期日:令和3年11月26日(金)

会場:金津小学校

内容:公開授業・協議(算数・数学・理科の授業づくりなど)

【今後の方向性】

- ・「幼小接続カリキュラム(接続推進計画)」に基づき、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、「架け橋期の目標(育成を目指す資質・能力)」を具現化する教育活動を推進します。令和4年度は、宇ノ気小学校区(うのけ幼稚園:文部科学省「幼児教育の理解・発展推進事業」研究推進園に指定)の取組を他の地域へ発信・拡充し、幼小連携の更なる充実を図ります。

- ・「学びの連続性」を意識した継続性・連続性のある小中連携した指導を強化し、学力向上や生徒指導、特別支援教育等の充実を図ります。

令和4年度は、教科研修会(国語・社会・英語)及び各中学校区での授業参観や「小中連携協議会」の開催など、年間を通した小中連携の取組をより一層推進します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
幼小連絡協議会(認定こども園と小学校)の開催回数		2回	2回	2回	2回	4回
全国学力・学習状況調査で「近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」と回答した学校数	小学校	1校	1校	—	4校	6校
	中学校	2校	0校	—	3校	3校

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

基本的方向 1－(2) 豊かな心と

社会の変化に対応できる資質・能力の育成

① 道徳教育の推進

担当課	学校教育課
-----	-------

<取組内容・成果>

- ・各学校において、毎年、児童生徒の実態、保護者などの願いなど、現状を踏まえた上で、道徳教育における重点目標を定め、各学年における具体的な取組を進める全体計画（年間指導計画）を策定し、「考える道徳、議論する道徳」について共通理解を図り、各校での各教科での指導や特別活動での指導を含め、道徳教育を推進した。
- ・共通道徳担当教師を対象とし、小学校では「西田先生の生涯を中心に学び、その人となりから学習する」、中学校では「西田先生の生涯からその哲学までを学び、自己を振り返る学習をする」という共通道徳（小学5年生、中学2年生）について全小中学校で実施した。また、身近な問題について考えを深め、対話を楽しむ哲学対話『小学生の哲学対話』についても、全小学校5年生及び中学校2年生を対象に開催した。

【今後の方向性】

- ・「考える道徳」「議論する道徳」の具現化に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善を進め、問題解決的な学習を進めるなど発達段階を踏まえた効果的な指導方法の工夫・改善に引き続き取り組みます。
- ・地域教材の活用として、郷土の偉人である西田幾多郎について、その生き方や考え方を学び、郷土への愛情を育むため西田幾多郎記念哲学館と連携した「ふるさと教育～西田幾多郎から学ぶ～」を実施します。小学5年生は、道徳の授業「吾行く道を吾はゆくなり」の実施と「哲学対話」、中学2年生は「西田幾多郎記念哲学館」の見学と講話を通して、自己を見つめ、これからの生き方を考えます。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合	小学校	26.6%	23.5%	—	23.8%	50.0%
	中学校	26.2%	12.8%	—	18.1%	50.0%
全国学力・学習状況調査で「児童・生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒の割合	小学校	28.4%	33.4%	—	40.9%	50.0%
	中学校	36.1%	34.4%	—	40.5%	50.0%

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

② 自己肯定感の育成と発達段階に応じたふるさとキャリア教育の推進

担当課

学校教育課

＜取組内容・成果＞

- ・すべての中学校で、例年夏季休業中に行っていた「職場体験活動」であったが、新型コロナウイルス感染症対策として、各学校で講師を招いての形で規模を大幅に縮小して実施しました。
 - ・小学校6年において、かほく市共通アンケート調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた割合は令和2年度と同程度であった。新型コロナウイルス感染症の影響等により、コミュニティ・スクール等の活動も制限されるものの、地域を知る活動や地域の方々からいろいろな話を聞き、今の学びが将来に生きることを深く考える取組、また、家族・身近な人の仕事調べ、社会見学や工場見学を通じて働く人々の姿に触れる体験的活動などの継続的な取組が必要である。
 - ・多くの生徒の新たな学びにつながる事業を展開
 - * 市長の特別授業 「かほく市のまちづくり」の実施（3中学校）
かほく市の魅力を再認識し、市の将来に対して希望を見出し、かほく市に愛着と誇りを持つことを目的に実施した（新型コロナウイルス感染症対応のため、3中学校毎に開催）。
- ・高松中学校 11月4日 ・河北台中学校 11月15日 ・宇ノ気中学校 11月8日

【今後の方向性】

- ・職場体験活動について、地域事業者の協力、また、イオンモール・イオンリテールの協力を得ながら多種多様な職場を選択できるよう学校コーディネーターとも連携を図りながら実施に向けた検討を行い、ふるさとに根ざして働く人々の姿に触れる体験的活動に取り組めます。
- ・将来を担う若者たちに勤労観、職業観を育み、自立できる能力をつけることを目的としたキャリア教育を推進することにより、自分自身の専門的な資質・能力を維持、向上させ自己肯定感の育成に取り組めます。また、様々な職種の方を講師として招聘するなど、働くことの大切さや収穫の喜び、やりとげる達成感などを実感し、感謝する心が育まれる活動を推進します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市共通アンケート調査（7月調査）「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小学校	71.4%	72.9%	66.7%	68.5%	80.0%
	中学校	52.8%	54.7%	50.8%	49.8%	60.0%
かほく市共通アンケート調査（7月調査）「自分には、よいところがある」と回答した児童生徒の割合	小学校	53.5%	55.4%	54.8%	54.9%	70.0%
	中学校	32.6%	37.1%	35.9%	34.3%	60.0%

③ 学校における体験活動や読書活動の推進

担当課 学校教育課

<取組内容・成果>

- ・児童生徒の読書習慣、読書意欲の向上はもちろんのこと、読書は学力にも大きな影響を与え、また教職員の補助として教材等の準備など、教職員の求めに対応するため、継続して全小中学校に学校司書（9人）を専任配置した。

令和3年度全国学力調査・学習状況調査における読書と学力の関係（小学校6年）	児童数	児童数の割合	平均正答率	
			国語	算数
読書が好きと回答	151人	50.5%	—	—
どちらかといえば、読書が好きと回答	103人	34.5%	—	—
どちらかといえば、読書が嫌いと回答	24人	8.0%	—	—
読書が嫌いと回答	7人	2.3%	—	—
どちらともいえない、欠席・無回答	14人	4.7%		

*全国学力調査・学習状況調査は未実施であるが、市独自で実施

令和3年度全国学力調査・学習状況調査における読書と学力の関係（中学校3年）	生徒数	生徒数の割合	平均正答率		
			国語	数学	英語
読書が好きと回答	125人	38.7%	—	—	—
どちらかといえば、読書が好きと回答	111人	34.4%	—	—	—
どちらかといえば、読書が嫌いと回答	39人	12.1%	—	—	—
読書が嫌いと回答	15人	4.6%	—	—	—
どちらともいえない、欠席・無回答	33人	10.2%			

*全国学力調査・学習状況調査は未実施であるが、市独自で実施

- ・すぐれた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養を図るほか、県内文化芸術の振興に資することを目的として、児童・生徒を対象とした「芸術鑑賞推進事業」を実施した。
 - *オーケストラ鑑賞（中学生対象）の開催 11月10日（水）宇ノ気中学校
 - *スクールシアター（小学5年生対象）の開催 10月11日（月）河北台中学校講堂
- （新型コロナウイルス感染症の影響のため中止）
 - *かほく市小学校音楽会
 - *各学校での宿泊体験学習等の校外活動（七塚小学校以外）

【今後の方向性】

- ・令和3年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響により活動制限を余儀なくされたが、校外活動やコミュニティ・スクールにおいては、できる限り実施に向けた検討を行い、自然体験活動や集団活動、国際交流体験など、様々な体験活動の推進を図ります。
- ・読書は学力に大きな影響を与えており、全国的にも、読書が好きな子供は学力が高いという結果が出ていることから、「かほく市子どもの読書活動推進計画」に基づき、児童生徒の読書習慣、読書意欲の向上、また、子供の自主的な読書活動の推進を図ります。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「学校の授業時間以外に1日当たり30分以上読書をする」と回答した児童生徒の割合（※）	小学校	45.1%	49.0%	—	35.7%	50.0%
	中学校	31.0%	22.5%	—	23.4%	35.0%

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

（※）基本的方向3-(2)③の数値目標と同様

基本的方向 1 - (3) 児童生徒の体力増進と運動能力の向上

① 学校における運動機会の充実	
担 当 課	学校教育課
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県内の小学校が参加し、インターネットを通じて、自分のクラスの順位を競い合う「スポチャレいしかわ」に全小学校が登録し、新型コロナウイルス感染症の対応を図りながら、積極的な実践を積み重ねた。 <p>(表彰学級は以下の通り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スポチャレ・40m 「ベスト部門」 <ul style="list-style-type: none"> 1年の部 4位 高松小学校 1年1組 5年の部 6位 高松小学校 5年2組 ● スポチャレ・8の字 「チャレンジ部門」 <ul style="list-style-type: none"> 2年の部 6位 七塚小学校 2年2組 <ul style="list-style-type: none"> ・第16回いしかわっ子駅伝交流大会について、県内から男子58チーム、女子61チームが参加。かほく市からは、高松小学校、大海小学校、七塚小学校、外日角小学校、宇ノ気小学校が参加し、女子の部において、高松小学校が2年ぶり4回目（第1回、第2回、第14回、第16回）の優勝に輝いた。 ・市内小学校6年生を対象とした小学生体育大会（陸上6種目）については、新型コロナウイルス感染症の影響のため令和2年度に続き2年連続の中止となった（実施初年度：平成26年度）。 ・中学校部活動については、加賀地区中学校体育大会をはじめ、石川県中学校総合体育大会、石川県吹奏楽コンクール、北信越中学校総合競技大会、北陸吹奏楽コンクール及び全国中学校体育大会が実施され優秀な成績を収めた。 <ul style="list-style-type: none"> * 成績 北信越大会剣道競技 男子団体優勝・女子団体第3位 宇ノ気中学校 北信越大会陸上競技 男子共通走幅跳第5位 河北台中学校 山岸将大 北陸吹奏楽コンクール小編成部門金賞 高松中学校 全国中学校体育大会剣道競技 女子団体ベスト16 宇ノ気中学校 全国中学校体育大会卓球競技 男子個人第3位 河北台中学校 薛 大斗 ・中学校部活動における休養日及び活動時間について、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるよう、休養日及び活動時間を定め、統一的に取り組んだ。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度同様に「スポチャレいしかわ」の種目に全小学校が学級ごとに登録し、記録やランキングを上げる楽しさ、運動そのものの楽しさ、仲間と取り組む楽しさを学ぶと同時に、日常的に体力づくりに取り組んでいきます。 ・中学校の部活動について、教育的な意義を踏まえながら競技力の水準を低下させることなく、活動時間や休養日に関する取組を積極的に進めるとともに、スポーツ文化課及び社会体育関係団体等とも協議・連携を図りながら部活動のあり方について検討を進めます。 	

数値目標項目			計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国体力・運動能力、運動習慣等調査で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」と回答した児童生徒の割合	小学校	男子	71.5%	70.9%	—	66.7%	75.0%
		女子	64.3%	61.2%	—	61.5%	65.0%
	中学校	男子	69.0%	63.1%	—	60.5%	70.0%
		女子	48.9%	48.9%	—	44.3%	50.0%

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

② 健康づくり、体力向上をめざす教育の充実

担当課	学校教育課
<p><取組内容・成果></p> <p>・体力・運動能力調査等の結果を踏まえ、児童生徒の体力向上及び健康の保持増進を図る取組として、各小中学校において「体力アップ1校1プラン」を実施し、体力向上に関する指標及び目標数値を示し、目標達成に向けたプランを実施した。</p>	
学校・プラン名	目標指標・数値
高松小学校 高松っ子体力アップ大作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト「50m走」の数値記録を令和2年度より上回る ・新体力テスト「長座体前屈」の数値記録を令和2年度より上回る ・「体育の授業は楽しい」と答える児童の割合を85%以上とする
大海小学校 楽しく続けて筋力アップ!	<ul style="list-style-type: none"> ・握力・上体起こしにおいて、県平均を超える ・スポチャレいしかわにおいて、全学級でブロンズを上回る
七塚小学校 七塚げんきっず体力アップ計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の総合評価における「A群+B群を70%以上」を目指す ・本校の総合評価における「D群+E群を10%以下」を維持する ・「握力」の項目について、平均値を上回る学年を増やす ・「上体起こし」の項目について、平均値を上回る学年を増やし、6年男子は平均22回以上を目指す
外日角小学校 バランスよくパワーアップ <走・投>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年男女ともに8種目のうち5種目は県平均を上回るようにする ・「50m走・立ち幅跳び」について、県平均と同等または上回るようにする ・「ソフトボール投げ・握力」について、県平均を上回るようにする
宇ノ気小学校 うのけっこパワーアッププロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・長座体前屈、ソフトボール投げにおいて、各学年男女の6グループのうち、3グループ以上が県の平均値を上回る ・令和元年度の総合評価D+E群の割合19.5%を、令和3年度は16.5%に減らす
金津小学校 みんないきいき!風っ子タイム	<ul style="list-style-type: none"> ・風っ子タイムのふり返り項目で「楽しかった」「進んで体を動かした」と答える児童を90%以上にする ・令和元年度の調査でD、E判定だった児童の50m走及び長座体前屈における県平均との差は、平均すると1.31秒、3.4cm下回っていた令和3年度はその差を1.18秒、3.1cm以下(差を1割減)にする
高松中学校 高松中「有言実行」体力向上計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「反復横跳び」「立ち幅跳び」を重点種目と捉え、県平均を上回れるように取り組む ・学年別総合評価人数のDE群を8%未満にする
河北台中学校 心肺機能を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度末の計測について、全ての学年で県の平均と同等もしくは上回るようにする
宇ノ気中学校 体力アップマイプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・50m走(秒)…男子1年8.60 2年7.98 3年7.57 ・50m走(秒)…女子1年9.10 2年8.80 3年8.73 ・20mシャトルラン(回)…男子1年66 2年86 3年92 ・20mシャトルラン(回)…女子1年54 2年60 3年60

【今後の方向性】

- 引き続き、全国体力・運動能力調査の結果を分析し、児童生徒の実態や学校の実情に即した「体力アップ1校1プラン」を推進するとともに、結果を活用した体育の授業や学校独自の取組を展開します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
(数値目標追加) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(学校質問紙)で「学校の体育授業について、調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善を行った」と回答した学校数	小学校	4校	5校	—	2校	6校
	中学校	2校	2校	—	2校	3校

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

③ 安全でおいしい給食の提供、食育の推進

担当課	学校教育課
-----	-------

<取組内容・成果>

- 栄養バランスを大切にし、季節や旬、イベント等を捉えた興味深い献立を年間通じて企画し提供した。また、毎月1回「ふるさと給食の日」として旬の地場産物や地元産品を素材にした献立も年間通じて行った。
- 継続した食育の一環として、稲作体験、かぼっくりの定植や収穫、紋平柿の収穫や脱渋などの農業体験を行った。また、米飯給食については、差額補填によって河北郡市産コシヒカリの一等米を提供した。
- 食物アレルギーを持つ児童生徒は増加傾向にあり、十分な配慮を行うため、第1・第2学校給食センターは、保護者や主治医、学校医とも連携を図り安全で安心できる学校給食を提供した。
- 引き続き、学校司書とのコラボレーションで絵本に出てくる料理を学校給食として提供し、学校給食に対する関心をさらに高めることができた。また、給食時には校内放送で絵本の紹介をした。
- 新型コロナウイルス感染症の影響のため対面での給食ができず、例年実施している生産者との給食試食会は中止とした。
- 小中学校の児童生徒を対象に、米飯給食のアンケートを実施した。「ご飯が好き・どちらかと言えばご飯が好き」が、小学校で53.3%、中学校で65.2%であった。米飯給食回数については、「今のままだよい(週3回)」が小中学校とも約過半数であった。

【今後の方向性】

- 引き続き、地元食材・加工品の提供を推進し、関係機関と連携を図りながら地産地消を推進します。
- 児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、小中学校における学習指導要領に基づき、各教科等を通じた食育を推進します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
学校給食産地調査(11月調査)で、総食品数中の石川県産の食品数の割合	小学校	16.5%	—	—	30.0%
	中学校	21.6%	—	—	30.0%
学校給食産地調査(11月調査)で、総食品数中のかほく市産の食品数の割合	小学校	11.6%	—	—	25.0%
	中学校	20.7%	—	—	25.0%

※令和2年度、令和3年度の学校給食産地調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

基本的方向 1－(4) 新しい時代の教育に向けた学校指導体制の整備

① 教職員の資質の向上と組織的な学校経営

担当課	学校教育課
-----	-------

<取組内容・成果>

- ・学校組織の機能化や若手の成長に積極的に参画・貢献するために必要な資質の向上を図り、組織的な学校運営に必要なリーダー的人材の育成を目的に、校長の推薦する者（中堅教職員）を対象として、市教職員ミドルリーダー研修会を実施した。教育長の講話、現教頭からの指導・助言により、リーダーとしての意識の向上に繋がった。
- ・各学校において、計画的な校内研究や若手教員に中堅・ベテラン教員の経験や知識・スキルを継承させ、早期の人材育成を図るため、校内若手教育研修など実施し、「組織的な学校経営」に資する研修を実施した。

【今後の方向性】

- ・学校が抱える諸課題に対して、組織的に解決していく力がさらに高まるように、リーダー的人材の育成を更に図っていきます。特に、若手教職員のうち次のリーダーとなる人材の育成のための研修会を実施していきます。
また、今後も「社会に開かれた教育課程の実現」に向け、地域人材を積極的に活用し、児童生徒の深みのある学びにつなげます。
- ・引き続き、校内若手教育研修の充実を図るとともに、学校内において実施されるOJTを通じて、日常的に学びあう校内研修の充実を図ります。また、学校や教職員の要望に応じて、専門性を有する人材や指導主事が学校に出向き、校内研修をサポートします。さらに、教育センターにおいても、例えば、特別支援の担当教員と支援員が共に学べるような会にするなど連携をより強化できるような研修会を実施していきます。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」と回答した学校数	小学校	4校	2校	—	6校	6校
	中学校	2校	1校	—	3校	3校
コミュニティ・スクールの取組による小中学校への参画人数(登下校の見守り除く)(※)		1,774人	1,765人	1,614人	1,370人	2,000人

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

(※) 基本的方向 2-(3)①②の数値目標と同様

② 教育センターにおける時代の変化に対応した研修の実施

担 当 課

学校教育課(教育センター)

<取組内容・成果>

・教職員研修については、参加する教職員の職務や研修の内容等に応じて、基本研修・指定研修・重点研修に体系化し、一部、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止や延期を余儀なくされたが、概ね計画的に実施することができた。

* 基本研修（新任教職員研修会、初任者等研修会） 2回

かほく市の教育の現状とかほく市が目指す学校教育を理解することを目的とした新任教職員研修会のほか、ふるさとの産業や歴史・文化についての理解を深める初任者等研修会を開催した。

* 指定研修（教務主任研修会ほか 13 研修会） 30 回

教務主任、研究主任、生徒指導主事を対象とした主任研修のほか、教育相談員研修、学校司書研修など、職務に関する教職員の資質向上を図るための研修会を開催した。それぞれの業務の質を高めることができ、学校教育の向上に寄与することができた（共通道徳連絡協議会等の4回の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止）。

* 重点研修（教科研修会、不登校問題対応研修ほか 8 研修会） 11 回

令和3年度のかほく市教育目標（重点目標）や今日的な教育課題に関する研修として、教科研修会（算数・数学／理科）、不登校問題対応研修会、特別支援教育コーディネーター・支援員研修会、G I G A 研修会などを開催した。講話やグループ協議を通して、現状の把握や今後の指導改善に資することができた。

【今後の方向性】

・かほく市教育目標（重点目標）の実現や今日的な教育課題に対応するために、小中連携を大切にした教職員の授業力や1人1台端末時代の授業づくり、いじめ・不登校等の研修会を充実します。

* 教科研修会、端末を活用した授業づくり、不登校問題対応研修、健康・体力向上研修など

・教職員の多忙化改善に配慮しながら、県費負担教職員の研修を精選・充実するとともに、特別支援教育支援員、学校司書、英語アシスタント、教育相談員などの市費配置職員（会計年度任用職員）の資質・能力を育成する研修会を充実します。

・市学校教育研究会と連携し、小小・中中、及び小中連携を大切にした研修会を充実させ、教職員の資質・能力の育成を図ります。

・幼小連携協議会を開催し、小学校と認定こども園の「かほく市幼小接続カリキュラム(令和3年2月作成)」の理解を深め、幼児教育と小学校教育の接続が円滑に行われるための取組を推進します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
時代の変化に対応した教職員研修の開催回数 (授業力向上研修・不登校問題対応研修・特別支援教育研修)	9 回	10 回	8 回	11 回	12 回
教員の多忙化に配慮した教職員研修の開催回数	28 回	28 回	21 回	23 回	20 回

③ 教職員の働き方改革の推進

担当課

学校教育課

<取組内容・成果>

- ・学校現場における教職員の業務負担の軽減を図るため、令和2年度よりもさらにスクール・サポート・スタッフを2人、部活動指導員を3人増員した。
- ・市教育委員会主催の教職員研修の削減、市指定研究校のあり方の見直し、部活動の活動時間の短縮、教育委員会による学校訪問についても、教職員の負担が軽減されるよう、内容等を含め見直しを図った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響のため予定していた行事が中止となったのも要因の一つではあるが、特に中学校においては月80時間を超える人数が減少傾向となっており、教職員の意識にも変化がみられるとともに、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員の増員についても成果として数値に現れている。

かほく市立学校教職員の時間外勤務状況結果

小学校		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和 元年度	時間外勤務 80 時間超	29	23	25	14	0	13	20	12	2	1	3	2
	調査対象教職員数	123	123	122	122	122	122	124	124	124	123	124	122
令和 2年度	時間外勤務 80 時間超	2	0	8	4	0	5	5	5	0	0	3	5
	調査対象教職員数	121	122	122	122	123	123	123	123	123	123	123	123
令和 3年度	時間外勤務 80 時間超	14	9	8	0	0	2	5	1	1	0	2	0
	調査対象教職員数	123	123	123	123	123	123	122	122	122	122	123	123

中学校		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和 元年度	時間外勤務 80 時間超	40	41	40	31	6	40	37	32	23	22	24	0
	調査対象教職員数	69	69	69	69	69	70	70	70	70	70	70	70
令和 2年度	時間外勤務 80 時間超	0	0	32	32	15	30	35	21	18	9	12	16
	調査対象教職員数	68	68	68	68	68	68	68	68	67	67	67	67
令和 3年度	時間外勤務 80 時間超	30	28	30	25	0	21	27	18	10	7	1	4
	調査対象教職員数	71	71	71	71	71	71	70	70	70	70	70	70

* 令和2年3月から5月までについては、新型コロナウイルス感染症の影響のため学校臨時休業

* 令和2年8月については、新型コロナウイルス感染症の影響のため夏季休業が短縮

* スクール・サポート・スタッフ配置数

令和2年度 2人 (宇ノ気小1人・宇ノ気中1人)

令和3年度 4人 (宇ノ気小1人・高松中1人・河北台中1人・宇ノ気中1人)

* 部活動指導員配置数

令和2年度 3人 (高松中1人・河北台中1人・宇ノ気中1人)

令和3年度 6人 (高松中1人・河北台中3人・宇ノ気中2人)

【今後の方向性】

- ・引き続き、長時間勤務を止むなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で専門性を生かし、教職員の本務である教材研究や子供と向き合う時間を十分に確保するという観点に立った意識改革を進めます。
- ・重点目標をより具体化し「働き方改革の徹底」から「教職員の超過勤務の縮減」として取り組みます。
- ・これまでの統一的取組である、部活動の活動時間あるいは休養日、リフレッシュウィーク、定時退庁日などの取組の徹底を継続するとともに、月80時間超えの教職員をゼロにするための工夫を図ります。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
時間外勤務が月80時間超の教職員数 (年間延べ人数)	小学校	236人	144人	37人	42人	0人
	中学校	479人	336人	229人	201人	0人

基本的方向 1 - (5) 多様なニーズに対応した教育機会の提供・支援

① 特別支援教育の充実

担 当 課 学校教育課

<取組内容・成果>

- ・特別に配慮の必要な児童にきめ細かに対応するため、特別支援教育支援員を小学校全校に配置し、学習活動の円滑な運営の支援を行った。

	小学校配置人数	中学校配置人数	計
平成 25 年度	8 人	2 人	10 人
平成 26 年度	9 人	1 人	10 人
平成 27 年度	9 人	1 人	10 人
平成 28 年度	11 人	1 人	12 人
平成 29 年度	13 人	2 人	15 人
平成 30 年度	13 人	2 人	15 人
令和元年度	14 人	3 人	17 人
令和 2 年度	14 人	3 人	17 人
令和 3 年度	17 人	0 人	17 人

- ・小学校の通常学級に在籍している児童の中で、言語発達遅滞を中心として何らかの個別支援を必要としている児童のために、通級指導教室「ことばの教室」（2学級）を宇ノ気小学校に設置して専門的な支援をした。
- ・個別支援が適切に行えるように、特別支援教育コーディネーターを中心とし、かほく市共通の個別支援シートの活用を推進した。
- ・子ども発達相談支援センター（健康福祉課）の精神保健福祉士と学校教育課職員が、保育園や学校を巡回し、情報の共有を図り、その対応についての方向性を確認した。

【今後の方向性】

- ・支援員の一層の資質向上をめざし随時研修会を実施していきます。
- ・引き続き、就学前の早期発見や適切な支援が行われるよう、子ども総合センター（子育て支援課）、子ども発達相談支援センター（健康福祉課）、学校教育課の連携を促進し、巡回指導や情報の共有を図ることで、よりきめ細かな対応を展開していきます。
- ・障がいのある児童生徒の自立と社会参加に向けた取組、また、障がいのない子供と共に活動し学びあう交流及び共同学習の推進を図ります。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「学校の教員は、特別支援教育について理解し、児童・生徒の特性に応じた指導上の工夫をよく行った」と回答した学校数	小学校	4校	—	5校	6校
	中学校	2校	—	3校	3校

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

② いじめ等への対応の徹底

担 当 課

学校教育課

<取組内容・成果>

- ・平成 27 年度から教育委員会として小中学校全児童生徒の心の変化を観察するため、総合質問紙調査（i-check）を年 1 回実施し、指導改善や学級経営・生活指導の指針づくりに役立てている。
- ・いじめアンケート実施後、各校設置の「いじめ問題対策チーム」が中心となり迅速な対応に努めるとともに、いじめの未然防止についても各校において積極的な取組により、意識が高まってきた。
- ・各校のいじめ防止に対する取組が、保護者に伝わっているかどうかを「かほく市共通アンケート」で調査し、数値の低い学校に対して、引き続き指導を行い改善に努めた。

【かほく市共通アンケート調査：保護者アンケート】

- ・数値目標としている①「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う（児童生徒）」②「学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってきますか。（保護者）」について、7 月と 12 月に調査を行い、各校のいじめ防止に対する指導に効果的に活用することができた。

① 7 月調査 小学生 92.3% 中学生 91.0% ② 7 月調査 小学生 24.0% 中学生 19.0%
 12 月調査 小学生 93.2% 中学生 92.2% 12 月調査 小学生 24.6% 中学生 19.6%

【今後の方向性】

- ・「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を児童生徒に徹底させるとともに、各学校におけるいじめの解消に向け、いじめの認知と情報共有を今後も続けていきます。
- ・各学校において、「いじめ問題対策チーム」を常設し、全教職員に共通理解を図るとともに一貫性のある校内指導体制を充実させ、いじめはもちろんのこと、端末を使用しているいじめ等も見逃さない学校づくり、また、セキュリティ対策に今後も努めていきます。
- ・学校だよりや生徒指導だより、ホームページ等を通して保護者にも「いじめの未然防止に対する取組」が伝わるよう積極的な啓発活動に努め、安心・安全な学校経営を目指します（かほく市共通アンケートで実態調査を継続）。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市共通アンケート調査（8月調査） 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合	小学校	89.7%	92.9%	93.0%	92.3%	100.0%
	中学校	87.2%	87.6%	88.6%	91.0%	100.0%
かほく市共通アンケート調査（8月調査） 「学校における、いじめの未然防止のための取組が伝わってくる」と回答した保護者の割合	小学校	20.4%	20.8%	24.6%	24.0%	50.0%
	中学校	18.2%	18.2%	18.8%	19.0%	50.0%

③ 不登校児童生徒等への自立支援

担 当 課

学校教育課(教育センター)

<取組内容・成果>

- ・不登校児童生徒数は、令和2年度に比べやや減少したが、発達障害や家庭環境による不登校、小学生の不登校が増加している。また、学校や教育支援センター「すまいる」のどちらにも来ることができない児童生徒もあり、その対応や支援が求められる。
- ・不登校については、不登校児童生徒及びその保護者へのきめ細かな支援を進めるとともに、未然防止や早期発見・早期対応の取組が必要である。各学校では、令和2年度から中学校に配置した教育相談員（3人）、スクールカウンセラーの活用や関係機関と連携した支援に努めている。
- ・教育センターでは、各学校の生徒指導主事や教育相談担当を対象とした不登校や特別支援教育、教育相談に関する研修会を実施した。不登校生への支援や未然防止、子供への向き合い方などについて理解を深めることができた。
- ・教育支援センター「すまいる」では、通室生への日々の学習・生活支援をはじめ、保護者への働きかけとして、送迎時や電話での連絡を密にしたり、保護者会（7・11月）を開催したりした。また、教育相談員や各学校の担当者と連携・協力し、通室生や不登校（傾向）児童生徒へのきめ細かな支援を行った。

◇かほく市における不登校の児童生徒の推移

(人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成25年度	31	31	33	33	—	36	35	36	36	35	37	38
平成26年度	28	33	38	40	—	43	46	47	48	48	50	50
平成27年度	25	27	31	32	—	38	43	45	46	47	46	45
平成28年度	25	31	35	37	—	39	42	45	46	46	48	48
平成29年度	30	33	35	36	—	33	34	34	34	35	35	34
平成30年度	24	30	36	32	—	34	38	45	47	48	55	52
令和元年度	31	35	41	42	—	46	45	48	50	48	50	—
令和2年度	—	—	52	59	60	60	62	67	68	73	67	69
令和3年度	38	39	48	50	—	57	61	58	57	64	70	66

* 令和2年3月から5月まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため学校臨時休業

【今後の方向性】

- ・教育支援センター「すまいる」と中学校に配置した「教育相談員」や学校の担当者との連携をより一層強化し、不登校児童生徒や保護者へのきめ細かな支援を推進します。
- ・不登校児童生徒に対しては、面談や電話、家庭訪問などでの声かけや、オンラインによる学習・生活支援など、学校復帰や社会的自立に向けた支援を推進します。また、校長を中心とした組織的・機能的な支援体制を構築し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、福祉・医療機関等の関係機関と連携した支援の充実に努めます。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
教育支援センター「すまいる」に通う中学3年生の進路等の確定状況	100.0%	100.0%	75.0%	100.0%	100.0%

④ 教育相談体制の充実

担 当 課

学校教育課(教育センター)

<取組内容・成果>

- ・相談体制の強化を図るため、令和2年度から、教育支援センター「すまいる」に2人、3中学校に各1人の教育相談員が配置され、相談体制の充実が図られた。各学校では、教育相談員やスクールカウンセラーを活用した教育相談や、子ども総合センターや児童相談所等の関係機関と連携した教育相談など、きめ細かな教育相談を進めている。
- ・教育センターでは、「教育相談のご案内」という広報紙を、児童生徒の全家庭に配布し、ホームページにも教育相談の案内を行っている。教育相談の内容は、不登校やいじめ、進路、友人関係など学校生活に関わる様々な相談や子供との関わり方など多岐にわたり、件数は、夏休み明けの9月から10月頃に多い。
- ・月1回(第4火曜日)、教育センターのカウンセラーとして、児童生徒の臨床心理に関して高度な知識を有する臨床心理士による教育相談を実施している。

◇教育センターにおける相談件数

年度	来所相談	訪問相談	電話相談
平成25年度	31	8	57
平成26年度	46	7	23
平成27年度	50	9	17
平成28年度	60	9	19
平成29年度	34	10	6
平成30年度	130	4	19
令和元年度	177	15	18
令和2年度	311(※)	64(※)	748(※)
令和3年度	153(※)	43(※)	282(※)

※令和2年度からは中学校教育相談員への連絡・相談件数も含む。

【今後の方向性】

- ・教育センターでは、来所、訪問、電話による相談を行っているが、教育相談の案内を増やしたり、メールや手紙など、相談方法の多様化を進めたりするなど、気軽に相談しやすい環境を整えます。また、中学校に配置した教育相談員を中心に、校区の小学校を含め、不登校生や保護者との連絡や相談、教育支援センター「すまいる」と学校の連携の強化など、教育相談体制のさらなる充実を図ります。
- ・不登校児童生徒が年々増加傾向にあり、その原因も多様化している。引き続き、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関等との連携を強化し、適切な支援や対応に努めます。
- ・教育相談に適切に対応し、きめ細かな支援ができるように、教育相談員の資質・能力の向上に向けた研修会を計画的に実施していきます。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
教育センターへの来所相談、訪問相談、電話相談の件数	50件	1,123件(※)	478件	90件

※令和2年度からは中学校教育相談員への連絡・相談件数も含む。

⑤ 経済的な理由による子供たちの就学支援

担当課

学校教育課

<取組内容・成果>

- ・高等学校及び高等専門学校に進学または在学する生徒で、成績が優秀にして、かつ経済的理由により修学が困難な者に対して、修学上必要な学資金として月額 8,000 円を支給した。

〈奨学資金支給の推移〉

年度	出願者数	奨学金支給者数
平成 25 年度	19	13
平成 26 年度	24	15
平成 27 年度	26	15
平成 28 年度	32	15
平成 29 年度	16	10
平成 30 年度	12	11
令和元年度	13	10
令和 2 年度	17	15
令和 3 年度	15	10

- ・就学援助費について、これまでも、家庭の経済格差が教育機会の格差を生まないよう、毎年、社会情勢や国の「要保護児童生徒の就学援助の支給基準」を参考に支給額を決定しており、令和 3 年度からは G I G A スクール構想を受け、児童生徒の家庭でのインターネットを活用した家庭学習を支援するため、「オンライン学習通信費」を追加した。

〈要保護・準要保護児童・生徒就学援助費認定件数の推移〉

年度	小学校	中学校	計
平成 25 年度	187	135	322
平成 26 年度	206	139	345
平成 27 年度	167	101	268
平成 28 年度	174	98	272
平成 29 年度	184	111	295
平成 30 年度	176	112	288
令和元年度	173	104	277
令和 2 年度	191	104	295
令和 3 年度	190	108	298

【今後の方向性】

- ・引き続き奨学金制度や就学援助費について、保護者への周知を図り、漏れのない支給を行うことにより、児童・生徒が安心して学べる教育環境を支援します。

基本的方向 1 – (6) 安心して学べる教育環境の整備・充実

① 学校施設の長寿命化の推進						
担当課		学校教育課				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松小学校の和式トイレを全て洋式化する「トイレ洋式化工事」を実施した。 ・小学校の遊具について専門業者による点検を実施し、不具合のあった遊具の修繕または更新を行い、安全で安心できる学校施設の確保に努めた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校（宇ノ気小学校、大海小学校）と全中学校（高松中学校、河北台中学校、宇ノ気中学校）のトイレ洋式化工事を実施し、全小中学校のトイレ洋式化（100%）を図る（令和4年度）。 ・校舎のバリアフリー化を図るため、宇ノ気小学校にエレベーターを整備する（令和4年度）。 ・学校・給食センター施設の定期的な点検を継続して実施し、施設の状態を把握するとともに、施設の劣化や不具合の早期発見に努め、予防的な対策を実施し、施設の管理水準の維持に努めます。 						
数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
「学校施設長寿命化計画（個別計画）」 の策定済学校数		0校	9校	9校	9校	9校

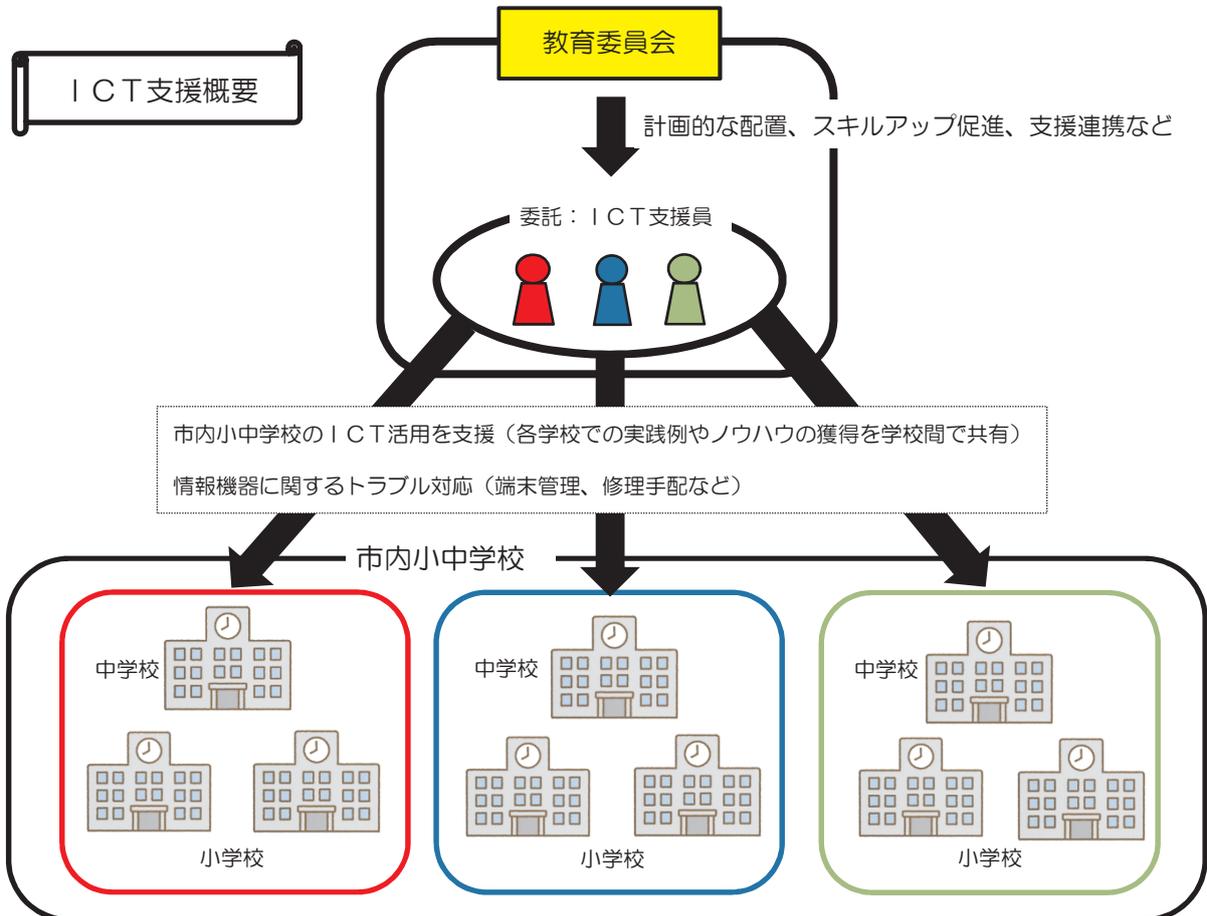
② 新たな学びを実現するICT環境等の整備

担当課

学校教育課

<取組内容・成果>

- ・国の補助事業を活用し整備した児童生徒1人1台端末を有効に活用するため、ICT支援員を配置（令和3年12月～）下図参照
- ・教職員の負担軽減を図るため統合型校務支援システムを導入
仮稼働：令和4年1月～、本格稼働：令和4年4月～



【今後の方向性】

- ・学校内における教職員の様々な場面でのICT活用におけるサポートや端末に関するトラブル対応など、教職員が授業等をスムーズに行えるようICT支援員を上手く機能させるとともに教職員のICT活用指導力の向上を図ります。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
「普通教室」「特別教室」の無線LAN整備済学校数	小学校	0校	1校	6校	6校	6校
	中学校	0校	0校	3校	3校	3校
3クラスに1クラス分の児童・生徒用コンピュータ整備済学校数	小学校	0校	0校	6校	6校	6校
	中学校	0校	0校	3校	3校	3校

③ 通学路の安全対策と安全・防災教育の充実

担 当 課	学校教育課
-------	-------

<取組内容・成果>

- ・各小中学校において、地域住民やPTA、見守り隊等の協力により、登下校における児童・生徒の安全確保が図られた。
- ・各小中学校において、避難訓練を実施し、また県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」による地震の際の初動対応である「しゃがむ」「隠れる」「じっとする」といった安全行動についても取り組み、自分の身は自分で守るという意識を醸成することができた。
- ・通学路の危険箇所について関係機関（道路管理者、警察等）を交えて通学路合同点検（令和3年8月5日）を実施し、対応策等の検討を行った。また、各学校やPTA会長を交えた通学路安全推進協議会（令和3年11月26日）を開催し、危険箇所の対策の進捗状況や結果の情報提供、関係機関への質疑や意見交換を行うことで、通学路の安全対策に関しての共通理解を深めることができた。

【学校施設における新型コロナウイルス感染症対応】

○感染拡大防止のため校内消毒作業を行った。

- ・令和3年5月8日 金津小学校
- ・令和3年5月10日 高松中学校
- ・令和3年5月14日 金津小学校
- ・令和4年1月16日 高松小学校
- ・令和4年1月29日 外日角小学校
- ・令和4年2月18日 金津小学校

○「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準を定め、感染症対策を実施した。

- ・身体的距離の確保
- ・児童生徒の健康管理（検温、換気、手洗い、消毒）
- ・感染リスクの高い学習指導の制限
- ・学校行事の内容見直し・中止など

○感染症対策のための保健衛生用品（熱中症対策含む）等の購入を実施した。

【今後の方向性】

- ・引き続き「かほく市通学路交通安全プログラム」に基づき、毎年実施する学校による安全点検のほか、隔年で実施する関係機関と通学路の合同点検の実施や点検結果による具体的な対策の検討、対策後の効果を検証するとともに、地域の実情に見合った対策の改善を、PDCAサイクルとして実践し、通学路の安全向上を図ります。また、近年、全国的に人里にまで出没し、危害を加える鳥獣（クマ、イノシシ等）に対しては、出没情報の収集、伝達を速やかに行うと共に、鳥獣に対しての正しい知識を身につけることで子供たちの被害防止に努めます。
- ・様々な自然災害や交通事故、犯罪等の状況を踏まえ、児童生徒等を取り巻く多様な危険を的確にとらえ、児童生徒の発達段階や地域特性に応じた質の高い安全・防災教育の取組を、地域や関係機関とも連携・協働しながら引き続き推進します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
安全教育・交通安全教室を開催している学校数	小学校	6校	6校	6校	6校	6校
	中学校	3校	3校	3校	3校	3校

基本的方向 2 - (1) 家庭の教育力の向上

① 親学びへの支援と家庭教育に関する学習の推進

担当課

生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・あいさつ励行と交通ルール指導のため、9月21日から30日までの7日間、「かほく市グッドマナーキャンペーン」を展開した。教育振興会、社会教育委員、民生・児童委員、市職員246人がキャンペーンに参加したほか、市内各小中学校においても、教職員、児童生徒、保護者等が取り組んだ。
- ・家庭教育の一環として、成長期及び就学における睡眠と食事の大切さについて親子で学んでもらうための「より良い生活習慣を定着させる取組」として、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を継続実施しており、令和3年度は、「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、令和5年度の目標値には達しないものの、高い割合となっており、特に中学生の割合が前年度比約3パーセント上昇した。

(「早寝・早起き・朝ごはん」運動実施内容)

- * かほく市PTA連合会の基本方針の1つに掲げ、PTA活動内でも推進
- * 幼稚園・こども園児へ「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進するため、「げんきいっぱいカード」を市内幼稚園・こども園へ配布



市内幼稚園・こども園へ配布した「げんきいっぱいカード」

【今後の方向性】

- ・幼少期からの生活リズムの大切さや適切な食習慣の習得に向け、今年度も子ども園・小学校への周知活動を行った。習慣の定着には継続が大切であることから、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を図ります。効果を表す数値データなどを示したうえで、家族みんなで取り組むよう、学校と連携し推進します。
- ・各種運動の実施に際しては、学校との十分な調整を図り、効果的な取組として継続します。
- ・保護者が家庭教育について考え、話し合い、気づきを得られる機会を増やすための取組として子育て関連の題材も取り組みます。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市共通アンケート調査 (7月調査)で「朝食は毎日食 べる」と回答した児童生徒の 割合	小学校	86.6%	88.1%	86.6%	86.0%	90.0%
	中学校	84.3%	84.9%	84.3%	87.1%	90.0%

② 親子による体験活動などの促進

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

・親子のコミュニケーションを深め相互理解を図るため、かほく市民大学校において『親子で参加する教室』として、「天体望遠鏡づくり」「防災体験教室」「科学教室」「まつぼっくりツリーを作ろう!」の4講座を実施した。また、地元企業の(株)PFUと連携し、「PFUものづくりラボ2021」を開催した。ほかにも、七塚生涯学習センター事業の『天体観望会』を開催した。親子が共に取り組む体験型の講座とすることで、親子のふれあいや対話、子供自身の学びの機会を提供した。

- * 市民大学校『親子で参加する教室』 4 講座実施 (計 35 組参加)
- PFUものづくりラボ2021 2 日間開催 (計 19 組参加)
- 七塚生涯学習センター事業『天体観望会』 3 回開催 (計 17 組参加) *新型コロナ・天候の影響で4回中止



『親子で参加する教室』チラシ



PFUものづくりラボ2021 チラシ

【今後の方向性】

- ・学校教育にも取り入れられているプログラミングとものづくりをコラボした講座は好評だった。今後も、体験活動において行政、地域、企業が連携し、時代に即した旬な内容のものも取り入れながら実施します。
- ・親子と地域の接点が増え、家庭と地域の結び付きをより強くし地域の一員としての自覚につながるような体験活動を実施します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
親子体験教室に参加した親子の組数 (延べ数)	98 組	103 組	91 組	71 組	120 組

③ インターネット社会に対応する力の向上

担当課

生涯学習課

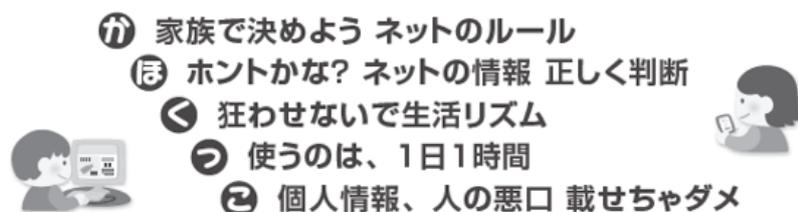
＜取組内容・成果＞

- ・市PTA連合会で令和2年2月に制定した「かほく市ネットルール共同宣言」を少年愛護センター機関紙「ふれ愛」に掲載し、全戸配布した。
- ・家庭における非行・被害防止を目的とした家庭教育力の向上を図るため、各小中学校において、児童・生徒の保護者等を対象とした講座を実施した。しかしながら、コロナ禍による外出制限で在宅時間が増えたことに起因するものなのかは不明だが、中学生のSNSなどを行っている時間数が1時間未満と回答した率が年々低下している。
- ・NPO法人ケーネット知楽市と石川県警察本部との協力により、プログラミング基礎教室（LEGO ロボット親子コース）において、ネット犯罪の危険性と被害防止などの啓発を行った。
- ・青少年健全育成に関する啓発活動を継続実施した。
 - * 機関紙「ふれ愛」発行（全戸配布）
 - * 各小中学校において「非行・被害防止講座」を保護者対象に実施

～ 安全にインターネットを利用するためのルール ～

市内3中学校の生徒会が定めたルールを基に、市PTA連合会や市小中学校長会との協力により「かほく市ネットルール共同宣言」を令和2年2月に策定しています。

「かほくっこ」の頭文字を使った5項目は、小中学校の全児童生徒が安全にインターネットを利用するためのルールです。



機関紙「ふれ愛」より（2022年3月発行）

【今後の方向性】

- ・前年までと比較すると、少年による窃盗などの犯罪行為や飲酒、喫煙、深夜徘徊といった不良行為については減少傾向にあるものの、格安スマホの浸透などにより、スマートフォン等の通信端末の普及が進んでいるため、インターネット犯罪に巻き込まれる危険性等に対する啓発を重点的に進めます。
 - ・近年におけるスマートフォン等を用いた小中学生のインターネット利用率が年々高くなってきている中、小中学校では1人1台のタブレット端末が配備され、今後も利用率がさらに増えることが予想されます。
- そこで、学校と家庭が連携し、児童生徒だけでなく、児童生徒と保護者へのスマートフォンやタブレット等の情報機器の利用に関する注意喚起や研修等を実施することにより、家庭における青少年の健全育成を支援します。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市共通アンケート調査（7月調査）で、「平日、メールやライン等のSNSやインターネット等を行っている時間数が1時間未満」と回答した児童生徒の割合（※）	小学校	43.2%	53.3%	49.6%	50.4%	80.0%
	中学校	50.0%	38.1%	31.5%	29.9%	80.0%

（※）基本的方向1-(1)③の数値目標と同様

基本的方向 2 - (2) 社会教育の活性化による地域教育力の向上

① 地域に活力を与える人材の育成						
担当課		生涯学習課				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会教育活動活性化への取組 <ul style="list-style-type: none"> ○地域づくり補助金 公民館活動を対象 10 公民館 交付額 1,736 千円 ○地域活動補助金 地域活性化を目的とした活動の立ち上げが対象 申請・承認 1 件（新型コロナの影響で実施に至らず交付実績なし） ・ I T - C A T S かほく推進協議会（かほく市 I o T 推進ラボ）の取組 <p>情報技術の発展や産業・社会構造の変化に対応する力を身につけ、未来をリードする人材育成のためプログラミング教育を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎教室 3 種類の基礎コース。3 回 1 コースで 4 半期ごとに実施。小学生・中学生が対象、延べ 229 人参加 ○K - L a b（ケーラボ） プログラミングの基礎等を修了し、より学びたい小学 4 年生以上を対象にプログラミング、ものづくりを楽しむ場を設置 令和 3 年 6 月開設。毎週水曜 17:00~18:30 令和 3 年度 45 回実施 延べ 294 人参加 ・若い世代が集まり話し合いや交流ができる場づくり 「てつがくカフェ」身近なテーマで対話、3 回実施。延べ 15 人参加 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の社会教育団体の協働を支援し、同じ地域の住民同士の交流を促します。 ・K - L a b の開設により、自分で考えるものづくり・プログラミングをする人たちが集まるようになった。今後は、プログラミングやものづくりをするだけでなく、高専や大学、身近な企業への見学や交流をすることで、進路の具体的なイメージを持つ機会を作り未来をリードする人材育成に努めます。 ・教育振興基本計画の計画体系における、4 つの「めざす人間像」の実現のため、若い世代を中心に他者と意見を交換し自分の考えを深める機会の場を定期的に作ります。 						
数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
人材育成につながる講座への参加者数（延べ数）		25 人	38 人	8 人	15 人	100 人
プログラミング関係教室の参加者数（延べ数）		208 人	276 人	334 人	540 人	300 人

② 社会教育団体の再興と活性化

担 当 課	生涯学習課
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none">・地域づくり補助金の交付 予算 3,000 千円 交付額 1,736 千円（10 公民館） <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none">・各社会教育団体が互いの活動の特徴を合わせ、より充実した活動となるよう支援し社会教育活動の再興を進めます。・地域づくり補助金については、地区公民館の位置づけ、あり方等が密接に関係しているため、社会教育委員会議において、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた先進自治体の視察研修を行ったうえで作成される「公民館を核とした社会教育活動の活性化について」の答申を踏まえ、一定の方向性を示す。	

③ 連携と協働による社会教育の推進

担 当 課	生涯学習課
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none">・子ども会と中学生のジュニアボランティアサークル（社会福祉協議会）の協働 各支部の子ども会活動に各中学校のジュニアボランティアサークルからの協力を依頼・地区公民館の差異の整理と施設の位置づけとあり方の再検討として、令和2年度に社会教育委員会議へ諮問を行った「公民館を核とした社会教育活動の活性化」について、令和3年度も引き続き委員会で審議を進めました。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった児童生徒のボランティア活動について、文科省や県教委からの感染症注意事項に対応しながら実施します。・出前講座とともに「金沢大学市・町共催公開講座」についても、町会・区や公民館、各社会教育団体に周知します。・ICTを活用するなど、新型コロナウイルス感染症対策に対応した教室の開催を推進します。・IT-CATSかほく推進協議は、高専・大学・企業と連携し、児童・生徒が学び続ける先のイメージを持ち、意欲的になるための機会を作ります。・公民館の活動について地域ごとの管理運営体制や、活動の状況を整理し、社会教育委員会議において今後のあり方を検討した内容も踏まえ、活性化に向けて具体的な取組を進めます。・社会教育団体や他部署の関係団体と子供たちの成長、自立を支援する活動を実施します。・令和3年度から継続審議となった「公民館を核とした社会教育活動の活性化について」について、4年度上半期中に社会教育委員会議から答申をもらい、令和5年度以降の管理運営に向けた対応を図ります。	

基本的方向 2 - (3) 学校を核とした家庭・地域との連携の強化

① 学校を核とした活動の充実					
担当課	生涯学習課				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の開催 各学校 年3～4回 ・かほく市コミュニティ・スクールプランの実施 補助金交付 予算4,500千円 交付額3,826千円 ・新型コロナウイルス感染症の影響でゲストティーチャーやボランティアなど外部人材の活用機会が減少している。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール実施から6年がたち、学校内の充実がみられることから、今後の方向性を話し合うことを目的に（仮称）コミュニティ・スクールシンポジウムを実施予定。学校運営協議会委員、学校関係者が意見交換をし、改めて学校・家庭・地域が協働し子供たちを育てる理想図を描きます。 ・家庭と地域の結び付きを意識した活動を実施し、学校・家庭・地域が子供たちの成長を共に見守る体制づくりを行います。 					
数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
コミュニティ・スクールの取組による小中学校への参画人数 (登下校の見守り除く)(※)	1,774 人	1,765 人	1,614 人	1,370 人	2,000 人
(※) 基本的方向 1-(4)①、基本的方向 2-(3)②の数値目標と同様					

② 「支援」から「連携・協働」へとつながる意識の醸成					
担当課	生涯学習課				
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大海小学校と大海地区が、学校公開や地域の文化祭など、それぞれの行事を共に行い地域の活性化を目指す事業を企画した（新型コロナウイルスの影響のため規模縮小し実施）。 ・市広報紙にコミュニティ・スクールについて掲載した。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）コミュニティ・スクールシンポジウムを実施し、学校活動や子供たちの課題について意見交換した内容を踏まえ、家庭や地域が連携して楽しんで取り組めるよう推進します。 					
数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
コミュニティ・スクールの取組による小中学校への参画人数 (登下校の見守り除く)(※)	1,774 人	1,765 人	1,614 人	1,370 人	2,000 人
(※) 基本的方向 1-(4)①、基本的方向 2-(3)①の数値目標と同様					

③ 地域課題解決のための多世代が関わる体制づくり

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・生涯学習を推進している各種社会教育団体に対し、活動の活性化に必要な事務支援・補助を行った。

【今後の方向性】

- ・公民館を活用し、複数の社会教育団体の交流を支援することで同じ地域の住民同士の交流を促します。
- ・地域で学ぶ場を増やすことで、住民同士の交流の機会を作り地域の活性化につなげます。
- ・コロナ禍の経験を踏まえ、環境に応じた講座、教室が実施できるようリモート通信やネット配信を提案し、W i - F i 機材の貸し出しなど、I C T を活用した支援を行います。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
公民館と地域コミュニティ施設において、多世代の住民が交流する講座、教室等の開催回数	—	15 回	19 回	33 回	55 回

基本的方向 3 - (1) 人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進

① 「学び」を活かす機会と活動の充実

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・市民の生涯学習活動の成果を発表する機会として開催している生涯学習フェスティバルについては、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、規模を縮小して実施した。

期 間： 10月30日（土）・31日（日）
 会 場： 河北台中学校、河北台健民体育館
 内 容： 表彰式、芸能発表会、各種展示会、フリーマーケット、模擬店（テイクアウト限定）、体験コーナー
 ※記念講演会：中止



「生涯学習フェスティバル」チラシ

（広報 12月号）

- ・市民大学校をかほく市の歴史・文化を題材とした一般教養の部として5回開催し、計92人が参加、参加者の7割以上が60歳以上であった。

【今後の方向性】

- ・コロナ禍でありながらも、多くの市民に来場いただいた。生涯学習に対する市民の関心の高さがうかがえることから、引き続き子供から高齢者まで多数の参加者が集い、生涯学習活動の成果を発表する機会としている生涯学習フェスティバルを、生涯学習の一大イベントとして、市文化協会をはじめとする社会教育団体などと協議しながら、一体となって創意工夫をこらし、作品展示、舞台発表、地域・文化活動の紹介、体験コーナーの充実を図ります。
- ・市民大学校に関して、コースを設定しての開催が好評を得たことから、今後は歴史・文化のほかに、子育て関連や高齢者向けの講座などを採り入れ、老若男女問わず多くの参加を目指すとともに、公民館事業などで学びを活かす機会づくりを支援します。

② 生涯学習に関する情報の発信

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・市民による生涯学習成果発表・展示の場として、海と渚の博物館の回廊部分を「市民ギャラリーうみっこ」として活用した。また、七塚生涯学習センターや高松産業文化センターにおいて、各種団体のチラシなどを掲示し情報を発信した。
- ・京都大学・金沢大学や哲学研究者と連携し、貴重な西田未公開資料の翻刻業務等を進め、西田哲学の調査・研究を行っている。
- ・市広報、チラシ、ホームページ、いいメール、ケーブルテレビ、新聞などを使い、幅広い世代に対して生涯学習に関する情報を発信することにより、市民に周知した。

【今後の方向性】

- ・施設側からの発信のみではなく、SNSなどによる来館者からの情報拡散による口コミ効果を狙う工夫を進めます。また、地域密着度の高い地域情報誌を活用して情報の周知を図ります。
- ・生涯学習フェスティバルについては、市民の生涯学習成果発表の場としては最大のイベントであり、多くの市民に来場いただくことがさらなる生涯学習意欲の増進につながることから、展示や芸能発表を行う各協会と連携し、イベントへの来場を呼び掛けることで来場者数の増加を図ります。
- ・令和4年度に開館20周年を迎える哲学館では、様々な記念事業を開催します。ホームページ・SNSなどを積極的に活用して広く情報発信をし、コロナ禍で減少している利用者の増加へとつなげます。研究者等が調査・研究に活用できる専門施設であることと、市民が気軽に集える場所であること、この両方を提供できるよう意識して、魅力ある事業を進めます。
- ・「市民ギャラリーうみっこ」については、以前、市民ギャラリーを利用していただいた団体や市内文化団体に対し、DMによる利用案内を行っている。今後も市民の芸術文化活動の発表の場としての利用促進をさらに進めます。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市の人口に対する生涯学習フェスティバル作品展示会場来場者の割合	16.2%	16.1%	中止	13.2%	18.0%
西田幾多郎記念哲学館来館者数	31,370 人	28,668 人	18,806 人	18,939 人	35,000 人
「市民ギャラリーうみっこ」を利用した展示会等の開催数	37回	16回	16回	10回	40回

③ 市民大学校による学びの充実

担当課

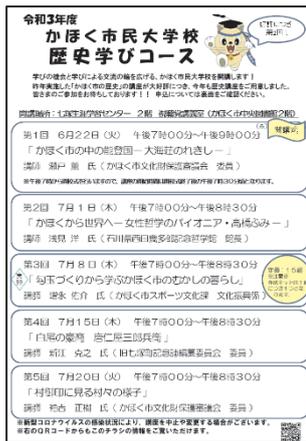
生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・市民の学習の場の一つとして、かほく市民大学校の講座を展開した。
 - 一般教養コース：「かほく市の歴史」をテーマにした歴史学びコース 全5回
 - 親子体験コース：6講座 全8回
 - 大人コース：5講座 全7回
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小し、対策を講じた上での開催となったが、個々の学びの意欲に応えるとともに、学びを通じた交流の輪の拡大を図ることができた。
- ・連続講座としてシリーズ化を図って講座を展開し、多くの方が複数回受講した。

令和3年度かほく市民大学校 講座

種類	回数
一般教養コース（歴史学びコース）	5回
親子体験コース（親子で参加する教室）	8回
大人コース（大人のための人生いきいき講座）	7回
図書館・哲学館連携講座	25回
合計	45回



「市民大学校歴史学びコース」チラシ 市民大学校親子体験コース実施の様子（広報9月号）

【今後の方向性】

- ・受講者へのアンケートでは「満足」「やや満足」と回答する方が多いため、さらに満足度を上げる講座内容にすることと併せ、これまで市民大学校を受講したことがない市民へのPRを行うことで、より多くの方に学習機会の提供と市民の学習意欲の向上を図ります。
- ・令和2年度から講座テーマを設定した連続講座については、参加者の評価も高いことから、引き続きアンケート調査を把握しながら、ニーズと時代に即した講座を実施します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市民大学校の受講者へのアンケートで「満足」または「やや満足」と回答した割合	—	92%	91%	91%	80.0%
市民大学校の各講座における最低参加者数	5人	5人	20人	5人	20人
出前講座の開催講座数	47講座	47講座	17講座	19講座	50講座

基本的方向 3 - (2) 読書環境の充実と生涯学習拠点としての機能強化

① 生涯学習拠点施設としての機能の強化

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・10周年を記念し、絵本作家を招いて絵本ライブを開催した。あわせて10年間の図書館事業や友の会だよりの展示を行った。図書館友の会が参加・協働し、市民とともに作る図書館づくりを行った。親世代だけでなく祖父母世代も絵本に興味を持ち、孫に絵本を読んだりプレゼントしたりするなど、生涯にわたり絵本にも触れる機会となった。
 - ・ケーブルテレビ、広報紙、ホームページ・Eメールかほく等を通じて、図書館の資料・事業・サービスについて情報発信（新刊情報案内、図書館事業案内など）を行った。
 - ・毎月23日の「市民読書の日」にあわせ、その前後の土曜日・日曜日に様々なイベントを開催した。
 - ・子供たちが地域を調べて作成した、かほく市子ども会の「ぼうさい探検隊マップ」を掲示。5作品。
 - ・読書を介して交流するイベント「読書カフェ」を開催した。4回 参加人数 42人
 - ・CD付英語絵本を市内全小中学校に貸出した。学校での展示・読み聞かせ・放送により英語や外国の文化に触れる機会を提供した。
 - ・「図書館友の会」やボランティア人材との連携を図り、図書館運営協力者会議での意見を踏まえながら、市民の声を取り入れ、市民に親しまれる図書館づくりに努めた。
- ※おはなしボランティア「やまんば」によるお話会 (年間26回、参加人数 328人)
 ※宮沢賢治を読む会 (年間7回、参加人数 50人)

【今後の方向性】

- ・高齢者向けサービス充実のため、引き続き大活字本の拡充を図ります。
- ・市内の読書ボランティア団体と地域で読書推進に携わる関係者との総合的な情報交換の場を設け、地域が一体となり読書活動推進に向けて取り組めるよう、連携強化を図ります。
- ・障害者差別解消法や読書バリアフリー法を受け、ICTを活用したサービスの提供を展開していくとともに、文字拡大や音声読み上げ対応など、電子書籍の利点を活かしたコンテンツを充実させ、多様な読書環境の整備を図ります。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市立中央図書館来館者数	130,358 人	92,202 人	102,919 人	140,000 人
年間貸出人数 (市立中央図書館分)	42,716 人	33,007 人	39,095 人	46,000 人

② 子供の読書活動の推進

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

【読書を通じた子供の健やかな成長のための取組】

- ・健康福祉課と連携し、4ヶ月検診とあわせてブックスタート事業（読みきかせ、絵本プレゼント、読書案内、図書館案内）を行った（年間24回開催、参加人数289人）。
- ・子育て支援センターに出向き、未就園児と保護者等を対象にお話を開催した（年間15回、参加人数182人）。
- ・英語のおはなし会を開催した（年間36回 参加人数361人）。
- ・新型コロナウイルス感染症対策をしながら、市内こども園・幼稚園の年長児を招待するおはなし会を開催した（年間4回、参加人数112人）。

【子供の関心と読書を結びつける取組】

- ・図書館10周年を記念した絵本ライブを開催するにあたり、市内こども園で絵本に関係する作品を作成し、イベント会場（イベント終了後は図書館内）で展示した。作品作成にあわせて読み聞かせも行っており、読書と結びつける取組となった。図書館での展示後は、こども園に作品を返却し、こども園での展示を行うこととし、イベント時だけでなく、イベント前後にわたって読書に結びつけられるようにした。
- ・手作り絵本教室、調べる学習教室は開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響のため茶会とおはなし会、夜の図書館、絵本で楽しむクッキングは見送った。
 - * 手づくり絵本教室 （全4回、参加人数30人）
 - * 調べる学習教室 （1回、参加人数15人）

【読書活動の励みになる取組】

- ・調べる学習コンクール（応募数704点）、手づくり絵本コンクール（応募数144点）及び作品展示、表彰式を行った。
- ・調べる学習コンクールの優秀作品を全国コンクールに推薦し、2点が優良賞に、5点が奨励賞に選ばれた。
- ・読書日記展を開催し、子供たちの読書活動の様子を紹介した（市内6小学校から3人ずつ18人、市内3中学校から6人ずつ18人）。

【今後の方向性】

- ・子供の読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校等がそれぞれの役割を十分に理解し、社会全体で取り組んでいくことが必要です。このため、ボランティアの育成や団体の活動を支援するとともに、地域での新たな活動機会等の提供に取り組み、市民協働による読書活動を推進します。
- ・子供時代の読書活動が大人になった時の支えになるため、読書習慣の形成に向けて、乳幼児期・小学生期・中学生期のそれぞれの発達段階に応じた効果的な取組を推進します。
- ・学校図書館と公共図書館が連携しながら、友人同士で本を薦め合う読書会やブックトークなど、読書への関心を高める取組を充実させます。
- ・調べる学習の精度がこれまでの積み重ねにより年々向上しています。引き続き学校と連携し、児童、生徒が受け身ではなく、自ら能動的に学びに向かうような主体的な学習の取り組みの支援を行います。
- ・学校でも昼休み・朝読書・授業の時間にALTやアシスタントティーチャー、ボランティアが英語絵本の読み聞かせを行う機会が増えています。団体貸出の機会提供、活用法の情報提供を引き続き行います。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
調べる学習コンクール及び手づくり絵本コンクールの応募件数	729件	18件	704件	800件

③ 市立図書館と学校図書館との連携

担当課

生涯学習課

＜取組内容・成果＞

- ・学校司書連絡協議会で、情報交換や研修を行い、連携を深めた（年間12回）。
- ・市立図書館から学校図書館へ貸出資料・返却資料の物流を行った（年間50回）。
- ・学校司書からの情報提供により、授業での並行読書や調べ学習に役立つ資料を充実させた。
- ・市立図書館・学校図書館担当者等の研修会で学校図書館の現状や先進事例を知り連携を深めた。

【今後の方向性】

- ・校長を学校図書館の館長として位置づけし、校長のリーダーシップの下、司書教諭または図書館担当教諭と連携しながら、チーム学校として、市立図書館とも連携しながら、小学校では様々な分野の図書に触れる活動を行い、中学校では読書の質を高める取組を進めます。
- ・市立図書館司書と学校司書が連携し情報交換や情報共有を行いながら、授業に役立つ資料や読書意欲・読書効果の向上につながる資料の充実を図るとともに、市内学校で一体的な読書活動推進の取組を進めます。

数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査で「学校の授業時間以外に1日当たり30分以上読書をする」と回答した児童生徒の割合（※）	小学校	45.1%	49.0%	—	35.7%	50.0%
	中学校	31.0%	22.5%	—	23.4%	35.0%

※令和2年度の全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止

（※）基本的方向1-(2)③の数値目標と同様

基本的方向 3 - (3) 博物館活動の充実と情報発信

① 石川県西田幾多郎記念哲学館の充実

担当課	生涯学習課
<p><取組内容・成果></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示に加え、企画展を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> テーマ：「枕辺の野花—西田幾多郎の妻・寿美—」 3月23日～9月26日 関連イベント：講演会「幾多郎とかほくの女性たち」 講師：浅見洋（西田幾多郎記念哲学館館長） 青空講座「幾多郎の短歌と植物」（2回） 協力：幾多郎の歌の風景を楽しむ会 テーマ：「頂天立地自由人—西田幾多郎の青春時代—」 10月5日～令和4年3月21日 関連イベント：朗読と座談会「幾多郎と仲間達」 朗読：茶谷幸也 座談会ゲスト：増山仁（金沢ふるさと偉人館副館長） 猪谷聡（鈴木大拙館学芸員） テーマ：「20年間の新収蔵品展」 令和4年3月23日～9月25日 ・「西田幾多郎哲学講座」（8回）、『善の研究』や西田幾多郎の講義や講演を収録した『西田幾多郎講演集』を読み進める「寸心読書会」（前期3回／後期7回）、「寸心忌記念講演会」を延期開催した。「夏期哲学講座」は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止した。 ・禅文化を気軽に体験する「坐禅会」を開催した。 ・身近なテーマを取り上げ、じっくり考え、対話することを楽しむイベントや哲学対話を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 小学生の哲学対話（大海小全学年×全学期） 共通道徳（小学5年生、中学2年生）各校1回 「映画上映会＋哲学カフェ」 哲学カフェ講師：大熊玄（立教大学准教授／西田幾多郎記念哲学館副館長） ・気軽に哲学に触れられるよう、哲学館ホワイエに「マスク／顔」をテーマにした本約50冊を配架して期間限定の読書空間を作り出し、「本の展示会」を1月15日から3月13日にかけて開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 入館者数 延べ 2,337人 関連イベント：哲学カフェ（3回 ※うち1回はオンライン開催） ・京都大学・金沢大学や哲学研究者と連携し西田未公開資料の翻刻業務を行った（ノート4冊、レポート59点）。 ・各種研修の受入と出前講座を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 研修受入 延べ 8回 147人（金沢大学、星稜大学、市教育センター、金沢二水高校 等） 出前講座 延べ 9回 1,190人（金沢二水高校、大海小学校、南砺市 等） ・西田記念哲学館利用助成金（大学等のゼミナールによる哲学館利用の促進を図る。） ・新型コロナウイルス感染症の影響により実績なし ・主な工事及び修繕 <ul style="list-style-type: none"> ・区分用気中開閉器改修工事 ・井戸展示修繕 ・哲学の杜駐車場修繕（タイヤ止め設置、車止めバリカー設置、境界ブロック修繕） 	
<p>※7月31日から9月12日までは新型コロナウイルス感染症対策のため休館</p>	
<p>【今後の方向性】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に開館20周年記念事業として特別展や記念講演会等を開催し、県内外に広くPRすることで来館者の増加につなげます。 ・令和3年度は鈴木大拙館や金沢ふるさと偉人館など他機関と連携しての交流事業を実施。引き続き他館との連携事業や、哲学カフェや禅文化体験会など気軽に参加できるイベントも継続的に開催することで、広く哲学の普及を図り、新たな来館者やリピーター（交流人口）の増加につなげます。 ・長期間の開催となる企画展が期間中に実施する関連イベントによりメディアやマスコミの注目を集められるよう工夫し、また、SNSを活用した豆知識情報を発信する事で、来館者の増加につなげます。 ・コロナ禍の経験を踏まえ、必要に応じてオンラインによる講座の配信や哲学カフェを実施します。 ・収蔵品データベースの資料情報の充実を図り、引き続き収蔵品データベースの閲覧と学術利用の更なる促進につなげます。（令和3年度は資料の学術利用・閲覧実績が7件。） ・京都大学・金沢大学等と連携し、貴重な西田未公開資料の翻刻業務等を進め、西田哲学の調査・研究を行います。また、その成果を研究資料化報告書としてまとめます（令和3年度は『報告5』を刊行）。 ・開館から来年で20年を迎え、建物や設備にも経年劣化がみられるため、設備等の更新を施設長寿命化計画に基づき実施し来館者が安全で安心して過ごせる環境の整備を行います。 	

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
西田幾多郎記念哲学館展示室観覧者数	8,563 人	9,144 人	6,472 人	6,243 人	9,500 人
西田幾多郎哲学講座の受講者アンケートにおいて、「とても良い」または「良い」と回答した割合	—	87.6%	86.1%	90.1%	80.0%

② うみっこらんど七塚の充実と「海と渚の博物館」機能の強化

担当課	生涯学習課
-----	-------

<取組内容・成果>

- ・「海と渚の博物館」での民俗資料の公開と市民の芸術文化活動の発表の場として「市民ギャラリーうみっこ」での作品展示会の開催、キャンプ場及びバーベキュー場の運営により人々の交流活動を促進した。
- ・博物館展示室観覧者数 2,365 人（うちギャラリー入場者数 860 人）
- ・「市民ギャラリーうみっこ」での展示会の開催 10 回
（主な展示会）
 - ・かほく市木犀句会展「春の海に寄せて」
 - ・ふしぎな花倶楽部 押花合同展
 - ・「手づくりおしゃれ工房」教室展
 - ・白峰会書道教室展
 - ・かほく市絵画協会作品展
 - ・原爆戦争写真展
 - ・七塚絵手紙教室作品展
 - ・石川県中央都市圏考古資料展 古墳時代編
 - ・第 17 回 私の作品展
 - ・かほく市生け花協会作品展
- ・キャンプ場等利用者数 1,189 人（うちバーベキュー場利用者数 323 人）
- ・体験活動の実施 貝がらアート体験 2 人
- ・出前講座の開催 大海小学校 3 年生 18 人
- ※ 5 月 13 日から 6 月 15 日までは新型コロナウイルス感染症対策のためキャンプ場の一部閉鎖（バーベキュー場のみ閉鎖）
- ※ 7 月 31 日から 9 月 12 日までは新型コロナウイルス感染症対策のため博物館休館

【今後の方向性】

- ・コロナ禍で利用制限もあったことから利用者減となっていたが、今後はウィズコロナの体制をとり、ホームページ、ケーブルテレビ、民間の広告媒体などを活用し、施設最新情報の発信を行い来館者の増加につなげる。また、かほくふるさと展示室が、ふるさと学習の拠点となるよう、学校などと連携を図り、有効に活用します。
- ・平成 11 年の開館から建物及び設備の経年劣化等が進行しているため、計画的な設備・機器等の更新・修繕等を適宜行います。「海と渚の博物館」については、現在の社会情勢や財政状況、市民ニーズなどを踏まえ、用途変更及び効率的な管理形態の見直しの可能性について検討します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
「市民ギャラリーうみっこ」の観覧を含む「海と渚の博物館」の来館者数	12,006 人	6,368 人	2,218 人	2,365 人	15,000 人

基本的方向 3 - (4) 生涯学習活動を支える環境の整備・充実

① 生涯学習センターの運営管理	
担当課	生涯学習課
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの生涯学習センター（七塚・宇ノ気）施設の適切な運営や維持管理に努め、設備更新や修繕を進め、安心して安全に利用できる生涯学習の場を提供した。 	
<p><宇ノ気生涯学習センター></p> <p>運営状況</p> <p>開館時間：火曜日～土曜日 午前9時から午後10時まで（図書、学習コーナーは午後5時まで） 日曜日・月曜日 午前9時から午後10時まで</p> <p>休館日：祝日、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）</p> <p>利用者数：令和3年度合計人数 29,746人（教育センター除く）</p> <p>主な修繕等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階通路ブラインド取替 ・1階トイレ改修工事 ・3階音楽室・視聴覚室カーテン改修工事 	
<p><七塚生涯学習センター></p> <p>運営状況</p> <p>開館時間：火曜日から土曜日まで 午前9時から午後10時まで 日曜日 午前9時から午後5時まで</p> <p>休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始</p> <p>利用者数：令和3年度合計人数 8,769人</p> <p>主な修繕等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階エレベーター付近漏水箇所内装修繕 ・七塚生涯学習センター各所網戸修繕 ・七塚生涯学習センター空調機修繕（AC-3外部配管修理・冷媒ガス充填及び室内機部品交換） ・七塚生涯学習センターWC出入口ドア修繕 ・七塚生涯学習センター屋外受電設備補修工事 ・七塚生涯学習センター空調機修繕（AC-6・AC-4系統） ・七塚生涯学習センター1階多目的トイレ手洗台改修工事 ・七塚生涯学習センター空調機修繕（AC-5・AC-6系統） ・七塚生涯学習センター樋補強工事 	
<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、経年劣化による修繕項目が増えてきており、緊急性の高いものもあることから、引き続き施設と設備の適切な運営と管理、良好な施設環境の保持に努め、市民の生涯学習の場、成果発表の場としての活用を促進します。 ・宇ノ気生涯学習センターについては、令和4年度に長寿命化に伴う実施設計業務を実施し、その設計を基に令和5年度から計画的な改修を行います。 ・七塚生涯学習センターについては、令和3年度に策定した長寿命化計画を基に計画的な大規模改修を行います。 	

② 地域交流施設などの有効活用

担 当 課

生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・地域交流施設については、市民大学校などの生涯学習事業による活用のほか、保育ママ向け講演会の開催や文化協会の活動発表の場として利用された。

(各施設実施内容)

- * 七塚生涯学習センター・・・市民大学校、女性会・子ども会などの各種団体における学習会など
- * 宇ノ気生涯学習センター・保育ママ向け講演会、英語アシスタント研修、文化協会の団体活動など
- * 河北台中学校講堂・・・成人式、立志式など

- ・地域活動の拠点施設である地区公民館について、快適な学習環境が継続できるよう施設の修繕を行った。

(地区公民館 主な修繕内容)

- * 木津公民館・・・グラウンドフェンス改修
- * 浜北公民館・・・バルコニー防水改修、2階サッシ補修
- * 白尾民会館・・・大ホールカーテン取替、非常用照明器具更新
- * 指江公民館・・・トイレ改修
- * 宇野気公民館・・・アルミサッシ補修
- * 内日角公民館・・・体育館床張替改修

- * その他、消防設備など適宜修繕を行った。

- ・各公民館での事業のほか、地域活動補助金による地域住民の活動の支援を実施した。

(取組事例)

- * 大海地区生涯フェスティバル実行委員会から、大海地区生涯フェスティバル開催にかかる補助金の交付申請があり、社会教育委員会議での審議において妥当と判断されたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、規模を縮小しての開催となったため、補助金の交付には至らなかった。

- ・令和2年度に市社会教育委員会議に諮問した「公民館を核とした社会教育活動の活性化」について、市社会教育委員会議では、答申に向け、公民館の現地調査や委員に対する書面による意見聴取などを行ったものの、新型コロナの影響のため、具体的な情報収集や勉強会、先進地視察などの企画ができなかったことから、令和4年度に継続審議することとした。

【今後の方向性】

- ・昨年も経年劣化による改修が実施された公民館の修繕等について、地元の要望をもとに協議を行い、必要性の高いものから順に実施します。また、長寿命化に向けた大規模改修などについて、地元と協議し、計画的に行います。
- ・市社会教育委員会議に諮問した「公民館を核とした社会教育活動の活性化」については、答申に向けて審議を行って頂いており、令和4年度上半期中に答申を頂き、その答申を踏まえ、具体的な取組計画を作成します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
地区公民館等のコミュニティ施設のあり方に関する整理と新たな支援	—	準備	諮問	審議	実施

基本的方向 4 - (1) ふるさと学習の充実

① ふるさと「かほく市」を学び知る機会の提供

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

・かほく市民大学校において、生涯学習課と連携し、県内の関係機関から講師を招き、「かほく市の歴史」をテーマとした講座を令和3年度に開催し、郷土の歴史や風土、文化財を知る機会を提供できた。

* かほく市の中の能登国―大海荘のれきしー	受講者 29 人
* かほく市から世界へ～女性哲学のパイオニア・高橋ふみ～	受講者 20 人
* 勾玉づくりから学ぶかほく市のむかしの暮らし	受講者 11 人
* 白尾の豪商 唐仁屋三郎兵衛	受講者 21 人
* 村御印に見る村々の様子	受講者 18 人

・うみっこらんど七塚の海と渚の博物館内にある「かほくふるさと展示室」の展示コーナーにおいて、遺跡から出土した遺物や、市指定文化財を展示したミニ企画展をホームページ等で告知し開催した。

- * 「気屋遺跡 縄文時代の食料事情」編 (令和3年4月/30日～令和3年10月5日)
- * 「飛脚注進札からみた江戸時代の交通事情」編 (令和3年10月6日～令和4年4月26日)

・石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会として、考古資料巡回展(弥生時代編)を実施し、かほく市においても「海と渚の博物館」にて令和4年1月7日から1月25日までの期間で展示公開した。

・イオンかほくSCと連携しイベントスペースにおいて、玉製品が出土した市内遺跡の解説と勾玉づくりを体験する「勾玉づくり教室」を令和4年1月15日に開催し、体験を通じながら市内の歴史を学ぶ機会を提供できた。体験者数は35組約100人(親子や友人同士が多く1組3人ほどが体験した。)

【今後の方向性】

- ・市民が郷土の歴史や文化財に気軽に親しむ機会の充実を図るため、イオンかほくSCなどの商業施設や観光担当部局、観光ボランティアガイドとの連携を強化し、様々な場所で市民がフィールドワークや実物に触れ親しむ体験型学習等の機会を拡充します。
- ・市史編さん事業を契機として、市史編集専門委員を活用した講座の開催を郷土の歴史や文化財を知る好機とすることで、市の古き良き歴史の魅力を学べる講座の充実に努めます。
- ・かほくふるさと展示室の、ふるさと学習施設としての魅力ある活用策について見学者アンケートの結果を踏まえ検討します。
- ・SNSを活用して、かほく市の文化財や歴史などの情報発信を行います。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
ふるさと学習関連事業の開催数 (市教育委員会が事業主体のもの)	3回	6回	7回	8回	5回

② かほく市ゆかりの人物に関する情報の発信

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

【鶴彬の紹介・発信】

- ・高松産業文化センター2階（展示ケース）において、鶴彬に関する展示を継続した。
- ・かほく市川柳協会と鶴彬を顕彰する会の主催による「第26回鶴彬川柳大賞」が開催され、全国へ情報が発信された。
* 第26回鶴彬川柳大賞 投句者数：194人

【高橋ふみの紹介・発信】

- ・【再掲】かほく市民大学校において、高橋ふみに関する講座を開催した。
* かほく市から世界へ ～女性哲学のパイオニア・高橋ふみ～ 受講者 20人

【唐仁屋三郎兵衛の紹介・発信】

- ・【再掲】かほく市民大学校において、高橋ふみに関する講座を開催した。
* 白尾の豪商 唐仁屋三郎兵衛 受講者 21人

【東善作の紹介・発信】

- ・広報かほく「かほく市の文化財」にて、東善作の紹介を行った。
* 広報かほく 8月号、広報かほく 2月号

【今後の方向性】

- ・地元ゆかりの偉人に関する更なる情報を発信するため「かほくふるさと展示室」での常設展示に加え、それぞれの人物に関連した資料や書籍、テーマや内容を決めた企画展など市史編集専門委員の意見を聴取しながらイベントを企画し開催します。
- ・市史編さん事業の啓発も兼ね、地元の偉人たちの足跡を辿り、更に触れてみる企画など、関連資料の整理やイベント、情報発信を強化するべく、「市史編さんだより」を発刊します。
- ・中央図書館や哲学館と連携し、講座等を含めた市民大学校の受講者に対して、郷土の偉人についての認知度を測るアンケート調査を実施し、その結果内容を分析し、講座内容等取組のアフターフォローを実施します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市民大学校の受講者等へのアンケートで各人物ごとに「知っている」と回答した割合	—	—	66.2%	74.3%	50.0%

基本的方向 4 - (2) 芸術文化活動の促進と支援

① 芸術や文化活動に触れる機会の提供						
担当課		スポーツ文化課・生涯学習課				
<p><取組内容・成果> 各種芸術文化的事業を実施した。</p> <p>〔哲学館ホール活用・ライトアップ連携事業〕 ・哲学館Xmasクラシックコンサート 2021 を開催。 * 期日及び会場 12月24日(金) 西田幾多郎記念哲学館 * 参加者 一般市民 194人 * 演奏内容 オーケストラ・アンサンブル金沢メンバー等による演奏</p> <p>〔中央図書館主催事業〕 ・市民読書の日事業を開催。 ①絵本ライブ * 期日及び会場 3月27日(日) 七塚生涯学習センター * 参加者 一般市民 84人 * 公演内容 絵本作家 tupera tupera による絵本の読み聞かせと絵本作成にまつわる話</p> <p>〔海と渚の博物館活用事業〕 ・「市民ギャラリーうみっこ」を活用して各種団体による展示会を開催 * 開催回数 計16回 * 主な内容 書道展、絵画展、水墨画展、生花展、押花アート展 ほか</p> <p>【今後の方向性】 ・市民の芸術文化活動への関心を高め、できるだけ多くの市民に、文化の薫り高い潤いある、魅力的で質の高い芸術文化に触れる機会を数多く創出します。 ・市民にとってより身近に芸術文化活動に触れる機会を創出するため、中央図書館や哲学館、海と渚の博物館だけでなく様々な場や機会を活用したコンサートや展示等のイベントを継続して開催します。 ・国民文化祭(いしかわ百万石文化祭2023)を契機とし、広く市民が市内での文化芸術活動に親しむことができる場の創出や環境づくりに取組みます。 ・イオンかほくSCと連携し、文化団体の発表の機会をさらに創出することで、商業施設でも気軽に芸術文化活動を市民等が親しむ機会を提供します。</p>						
数値目標項目		計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
コンサートや展示会など芸術発表の開催数 (市教育委員会が事業主体のもの)		4回	5回	4回	3回	6回

② 文化活動団体・個人への支援

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

【市内文化活動団体の紹介】

- ・文化活動団体の紹介チラシを作成し、全戸配布するとともに、生涯学習センターなどの公共施設にチラシを配置して情報を発信した。

【文化活動の紹介、情報発信】

- ・市広報にて、文化活動の紹介や活動の事前告知を行った。
「まちの話題」（掲載2回）、市からのお知らせ（掲載1回）
特集記事として第18回生涯学習フェスティバル

【文化活動支援補助事業】

- ・いしかわ県民文化振興基金「文化活動支援事業」による事業1件に対して対象期間中の補助金を決定交付した。（※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため事業中止）
*平成31年～令和4年 かほく市民謡の祭典事業
（市民謡協会設立15周年を契機として開催された会員による民謡発表会）

【全国大会出場者への支援】

- ・全国大会への出場者に対して激励費を交付し支援する（新型コロナウイルス感染症の影響のため大会中止となり支給実績なし）

【今後の方向性】

- ・市民に対し文化活動を行う新たな団体やサークルの結成、育成及び参加促進を図ることで、活動基盤の充実・発展を支援します。全国高等学校総合文化祭の出場者に対し激励費等を支給することでこれからの文化活動の担い手としての活動を支援します。
- ・今後、文化協会の紹介や活動内容を広報やホームページ、SNSなどを活用し発信することで、市民の文化活動への興味関心を高めるとともに、新たな人材の発掘や加入者増を図る方策を検討します。
- ・文化協会加盟団体に対し、石川県と連携しが県が芸術文化の活動支援策としている文化活動支援事業の更なる利活用を促します。
- ・市民が生きがいをもって芸術文化活動を行うことができるよう、市文化協会や各種文化団体等との連携を図りながら、イオンかほくSCなどの集客施設や生涯学習フェスティバルでの活動発表の機会の創出や交流の拡大、また、市民が活動に加わるきっかけづくりとして気軽に参加できる芸術文化関連イベントを企画する団体などの新たな文化活動の育成を支援していきます。
- ・会員の固定化・高齢化、会員数の減少傾向が進む文化協会・加盟団体には、新規会員の勧誘策や新規団体の加盟促進策について協会での検討を進めます。また世代間交流事業を通じ、本市の文化を次世代に継承していくため、大人と子供が交流する機会を拡充していきます。
- ・国民文化祭（いしかわ百万石文化祭2023）の開催をひとつのきっかけとし、市民の文化芸術活動の推進のため、活動の様子を広報誌、ホームページ、SNS等で市内外に広く発信します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
文化協会加盟会員数	1,278人	1,240人	1,191人	1,105人	1,320人

基本的方向 4－(3) 未来に伝える文化財の保護と活用

① 文化財を活用した学習の充実					
担 当 課		スポーツ文化課			
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代や弥生時代の学習に合わせて、市内小学校6年生を対象とした歴史体験教室（出前講座）を実施し、国指定史跡「上山田貝塚」や石川県指定史跡「大海西山遺跡」の学びにつなげた。弥生土器づくり・土器焼きを小学校5校で実施したほか、石川県埋蔵文化財センターと連携し、管玉・勾玉作り、縄文土器や弥生土器、石器の実物見学と説明を行った。 <p>【令和3年度実績】</p> <p>土器づくり・土器焼き 大海小 20人、高松小 69人、七塚小 42人、金津小 10人、外日角小 57人 出前講座 大海小 20人、高松小 69人、七塚小 42人、金津小 10人、宇ノ気小 108人、外日角小 57人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の遠足に合わせて、大海西山弥生の里の解説を行った。 宇ノ気小学校6年生（108人） ・江戸時代に完成し、現在も農業用水として使用されている「長柄用水」について、現地見学による学習支援を行った。 大海小学校4年生（16人） ・学校PTAとの連携事業として、外日角小学校にて市内遺跡を解説、紹介しつつ、管玉づくり体験教室を実施した。 外日角小学校6年生（15人） ・かほく市民大学校として下記の講座を開催した。【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> * 勾玉づくりから学ぶかほく市のむかしの暮らし 受講者 11人 * 村御印に見る村々の様子 受講者 18人 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が文化財を実際に見て、体験して学べるよう文化財とその周辺環境を一体として楽しめる文化財めぐりや史跡ウォーキングなどのイベントを開催します。 ・学校での意見や要望を踏まえながら、石川県埋蔵文化財センター普及部と連携し子供の興味関心を促す出前授業や文化財を活用したふるさと教育の充実を図ります。 ・本市の歴史、文化等を物語る能登街道高松宿の歴史的町並みや西田幾多郎書斎・骨清窟、長柄用水など建造物の文化的景観を活用した歴史学習の機会充実に向け、散策イベントなどを実施します。 ・文化財を活用した地域の魅力の発信として、市ホームページやSNS等、新たな媒体を積極的に活用し、楽しめる文化財情報として工夫を凝らし市内外に提供します。 					
数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
文化財関連座学及び体験講座の開催数	5回	10回	11回	16回	9回

② 文化財の公開と活用の促進

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

- ・海と渚の博物館内の「かほくふるさと展示室」にて、かほく市の文化財を紹介・展示した企画展を開催した。
 - 【令和3年度】【再掲】
 - * 「気屋遺跡 縄文時代の食料事情」編 （令和3年4月30日～10月5日）
 - * 「飛脚注進札からみた江戸時代の交通事情」編 （令和3年10月6日～令和4年4月26日）
- ・かほく市立中央図書館にて、過去に実施した発掘調査で撮影された航空測量写真から、かほく市の地形を踏まえて遺跡を解説する「空からみたかほく市の遺跡」を実施し、あわせて遺跡から出土した遺物を展示公開した。
- ・石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会として、考古資料巡回展（弥生時代編）を実施し、かほく市においても「海と渚の博物館」にて令和4年1月7日から1月25日までの期間で展示公開した。【再掲】
- ・広報かほくで各種の市内文化財などの紹介を通年で行った。

【今後の方向性】

- ・かほくふるさと展示室について、更なる施設の周知と常設展示の拡充及び企画展の展示品を定期的に入れ替えするなど飽きのこない展示内容を検討し実施します。
- ・かほくふるさと展示室の常設展示については、市史編集専門委員の意見を聴取し新たな展示項目を追加します。
- ・七塚生涯学習センターや高松産業文化センターなどの展示スペースを活用し、展示内容も市史編さん事業の進捗を鑑みながら随時更新し、収蔵資料の更なる活用を進めます。
- ・石川中央都市圏との連携を継続強化し、市外にも「かほく市の文化財を知る」機会を拡大するとともに、市内に現存する文化財情報を広く発信していきます。
- ・資料収蔵庫の老朽化を鑑み今後の収蔵品や資料の保管活用方法を検討します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
文化財をはじめとする各種ふるさと資料の公開のための「郷土資料展示室」の整備	—	実施	実施	実施	実施

③ 文化財の適切な保護と管理

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

- ・ 開発行為等に係る発掘調査を実施した。
ニツ屋E遺跡 令和3年6月17日～9月22日
- ・ 平成30年度に実施した県営ほ場整備事業に係る気屋遺跡発掘調査について、出土遺物整理作業（弥生土器、須恵器、土師器、石器などの実測トレース）を進め、発掘調査報告書の原稿の一部作成を進めた。
- ・ 大海西山弥生の里の竪穴住居（復元住居）の維持管理として、防虫のための燻蒸作業を実施した。
防虫のための燻蒸作業 令和3年11月22日
- ・ かほく市史の編さんを開始し、市史編さん室の設置工事を実施した。
かほく市史編さん委員会の実施（第1回 令和3年10月18日）
かほく市史編集専門委員会の実施（第1回 令和4年2月2日）
かほく市史編さん室の準備（内装工事、各種備品の購入など）
かほく市史編さんのための資料借用
- ・ 史跡整備されている上山田貝塚（国指定史跡）、大海西山遺跡（県指定史跡）については、パトロールと委託業務を通じて適切な史跡の保護を図った。

【今後の方向性】

- ・ 国県の指定史跡については、定期的に県と連携したパトロールを実施し、そのパトロール結果を踏まえて適切な管理と保護措置を進めます。また指定文化財等の劣化や破損等を防止するために、専門機関からの助言等を受け、文化財の特性・所有状況に応じた保存・管理等の支援を継続します。
- ・ 県指定史跡「大海西山遺跡」については、竪穴住居（復元住居）の茅葺きも更新したので、史跡活用促進・PRを進めます。
- ・ 市が保有する文化財、民俗資料等を保管する文化財収蔵庫の老朽化に伴い、今後の適切な保管方法・整備について検討を進めます。
- ・ 文化財の保存施設では、防火等の安全対策や耐震化の推進について関係部署と引き続き連携を図り、安全管理に努めます。
- ・ 郷土に関する貴重な史料の収集・整理を行い、ふるさとかほくの歴史を次の世代に継承するため、かほく市史を編さんします。令和6年度の図説の発刊準備や今後の刊行物の検討を行い、市制施行30周年である令和15年度を事業完了の目標として刊行計画を立て事業を進めます。
- ・ 市史編さん事業を契機とし、市史の編さん過程や収集した史料を公開するなど情報発信し、市民大学等、編さん専門委員による講演会等を企画し開催することで、市民の郷土に対する愛着、誇り等の意識の醸成に努めます。

刊行年度	種別	分野
令和6年度（2024年）	図説編	かほくの歴史
令和7年度（2025年）	資料編1	古代・中世
令和8年度（2026年）	資料編6	寺社
令和9年度（2027年）	資料編7	民族
令和10年度（2028年）	資料編3	近代
令和11年度（2029年）	資料編5	考古
令和12年度（2030年）	資料編2	近世
令和13年度（2031年）	資料編4	現代
令和14年度（2032年）	資料編8	集落
令和15年度（2033年）	通史編	通史

表 かほく市史刊行スケジュール（予定）

数値目標項目	計画策定時 （実績値）	R元年度 （実績値）	R2年度 （実績値）	R3年度 （実績値）	R5年度 （目標値）
かほく市内指定文化財の数	48件	48件	48件	48件	60件
かほく市史編纂委員会等の組織の整備	—	—	—	実施	実施

基本的方向 5 - (1) 生涯にわたるスポーツ活動の振興

① スポーツへの参画人口の拡大

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・令和3年度のスポーツ活動の普及・推進を図るため、引き続きスポーツ推進委員 19 人を選任した。
- ・公民館や自治会などへスポーツ活動の指導や派遣支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症で地区の行事開催が影響を受け、令和3年度も事業の多くが中止となった。
- ・ラジオ体操普及のための指導者講習会について、児童生徒を一堂に集めての講習会は開催を見送ったが、自宅でも気軽に継続的に取り組むことができるよう推進委員による指導動画を撮影しYouTubeでの配信を実施した。
- ・「かほく市民交流スポレクサーキット大会」は、新型コロナウイルス感染症の影響のため規模を縮小しながらもシッティングバレーボールを令和3年11月27日、ポッチャを令和4年1月23日に実施した。年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に楽しむことができる参加型イベントを通じて、継続的にスポーツに取り組むきっかけづくり、仲間づくりの推進に努めた。
- ・石川県のまん延防止等重点措置期間の延長に伴い、市制施行記念継走大会が中止となった。
- ・公式LINEなどのSNSを活用した新たな方法でのスポーツ実施率等のアンケートを実施した。

【今後の方向性】

- ・市民の取り組むスポーツが、既存の競技スポーツのみにとらわれない、日常生活での活動を含めた「スポーツ」の概念を幅広く捉えたものとした新たなスポーツスタイルについて検討を進めます。
- ・スポーツ推進委員の活動である、市民へのスポーツの指導及び助言や普及推進事業については、対象者が多様で活動時間も長くなることから、様々なニーズに対応できる資質を持った人材が必要とされており、活動を円滑に行うための適正な人数を確保できるよう募集に努めるとともに、引き続き資質向上に向けた指導スキル研修や支援等を行います。
- ・かほく市民交流スポレクサーキット大会を今後は市民交流大会として位置づけることで、年に1回、市民誰もが気軽に参加し楽しめる競技として開催します。また、ニュースポーツ及び障がいスポーツの体験会を開催することで多様なスポーツを通じて市民が交流が図れるよう進めていきます。
- ・イオンかほくSC等の商業施設内でスポーツ体験会を、スポーツ推進委員、クラブパレット、コナミスポーツ等とも連携し行うことで、買い物ついでに気軽に参加できるスポーツ体験会を実施します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市民（成人）の週1回以上のスポーツ実施率 (国目標：週1回以上65%程度)	—	79.0%	78.0%	55.3%	70.0%

※かほく市ホームページ、LINEにて11月11日から11月25日までアンケート調査実施
アンケート調査結果 226/409

② 運動習慣の定着とスポーツを通じた生きがいづくり

担 当 課	スポーツ文化課																
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が健康的かつ生きがいをもって自立した生活が送れるよう、健康増進や介護予防の必要性を学び、日頃からの体力・健康づくりにつなげるため、ケーブルテレビを活用した「ちょいトレ」や「百歳体操」などで市民に対する日常運動の啓発活動を進めた。 ・子供から高齢者まで誰もが気軽に参加できる市民交流スポレクサーキット大会は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し開催した。(参加総数) 319人 ・石川県立看護大学と連携して実施していた市民体カテストにおいては新型コロナウイルス感染症の影響のため中止とした。 (参考) 参加人数：令和元年度 87人 ・地域スポーツクラブや包括連携を締結している各関係団体とで、それぞれが保有する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力し、スポーツを通じた新たな連携事業を実施するべく、スポーツコミッションの検討、調査を継続している。 ・イオンかほくSCと連携し、遊びをスポーツと捉えた新たな事業として、けん玉や竹馬などの「昔遊び体験会」を令和4年1月15・16日に実施した。また、地域スポーツ競技の活性化事業として、地元プロバレーボールチームPFUブルーキャッツの県外開催ホームゲームのパブリックビューイングを初めて実施した。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動にあまり馴染みのない市民が、興味・関心を持ちながら運動の習慣化を図るため、看護大や健康福祉部局等と連携し、気軽に取り組めるスポーツを通じた健康の維持増進に関する取組を進めます。 ・市内外のスポーツイベントやスポーツに関する各種大会等の情報を広く提供すること、また、日常生活での運動習慣の定着により生活習慣病の予防につながる軽いスポーツプログラムの検討や、地域住民の多様な健康志向やニーズに応じたスポーツに親しむ機会を創出します。 ・市民自らが自身の体力の現況を知る機会として市民体カテストを開催し、できるだけ多くの市民が参加できるよう、民間事業者のノウハウを活用しながら実施します。 ・市民がスポーツに興味関心を持って取り組む環境を構築するとともに、スポーツコミッションを令和5年度中に立ち上げ、スポーツイベントや大会の誘致、開催支援を通じて、スポーツによる関係人口や交流人口の拡大を図り地域経済を活性化していく仕組みづくりに努めます。 																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="225 1296 767 1370">数値目標項目</th> <th data-bbox="767 1296 890 1370">計画策定時 (実績値)</th> <th data-bbox="890 1296 1010 1370">R元年度 (実績値)</th> <th data-bbox="1010 1296 1129 1370">R2年度 (実績値)</th> <th data-bbox="1129 1296 1249 1370">R3年度 (実績値)</th> <th data-bbox="1249 1296 1369 1370">R5年度 (目標値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="225 1370 767 1451">石川県立看護大学や地域スポーツクラブとの連携による健康づくりに関しての実施事業数</td> <td data-bbox="767 1370 890 1451">1事業</td> <td data-bbox="890 1370 1010 1451">1事業</td> <td data-bbox="1010 1370 1129 1451">0事業</td> <td data-bbox="1129 1370 1249 1451">0事業</td> <td data-bbox="1249 1370 1369 1451">3事業</td> </tr> </tbody> </table>						数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)	石川県立看護大学や地域スポーツクラブとの連携による健康づくりに関しての実施事業数	1事業	1事業	0事業	0事業	3事業
数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)												
石川県立看護大学や地域スポーツクラブとの連携による健康づくりに関しての実施事業数	1事業	1事業	0事業	0事業	3事業												

③ 女性活躍の促進と障がい者がスポーツに親しめる環境の整備

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・市体育協会、スポーツ少年団等の幹部役員には積極的に女性が登用されており、令和3年度も継続して役員として活躍している。
- ・スポーツ推進委員の募集は随時行っており、特に女性委員の委嘱にも力を入れている。委員 19 人中女性委員は9人で、委員に占める割合は 47.4%となっている。
- ・パラリンピック開催を契機とし、市民交流スポレクサーキット大会では障がい者スポーツに焦点をあてたパラスポーツであるシッティングバレーボール、ボッチャを開催し、年齢や障がいの有無などにかかわらず、誰もが一緒に気軽に楽しめるユニバーサルスポーツの普及・啓発を図った。市民交流スポレクサーキット大会には市内障がい者施設や社会福祉協議会などの参加協力を得て、2戦を通じて総参加者数 243 人の参加のもと開催することができた。

【今後の方向性】

- ・女性がよりスポーツに親しむ環境を構築するため、スポーツ推進委員や地域スポーツクラブ、スポーツ施設指定管理者と連携し、参加しやすいプログラムを提供します。
- ・パラリンピックをひとつのきっかけとし、障がい者のスポーツ参加促進や競技力向上のため、障がい者も対象となっている全国大会激励費支給制度について広報PRに努めます。また、障がいの有無に関わらず、積極的なスポーツ交流の促進と、スポーツに対する関心を高めるため、気軽に楽しくスポーツに親しむことができる体験会等の実施に取り組みます。
- ・女性のスポーツ参加を促すことを広く発信するために女性スポーツ選手・チームの活躍や女性向けのスポーツイベントなどを指定管理者と企画立案し、ホームページや各種イベント、SNSなどを使い発信することで、幅広い層のスポーツ参加を推進します。
- ・かほく市社会福祉協議会・県障がい者スポーツ協会と連携し、障がい者へのスポーツ活動の支援や障がいの有無にかかわらずスポーツに触れる機会の拡大を促進します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
障がい者の週1回以上のスポーツ実施率 (国目標：週1回以上40%程度)	—	42.3%	36.8%	40.6%	45.0%

※かほく市内障がい者福祉施設にアンケート調査実施
アンケート調査結果 43/106

基本的方向 5 - (2) 競技スポーツの強化と底辺の拡大

① 競技力向上にむけたスポーツ機会の充実

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

- ・ 競技スポーツとしての競技力向上と競技人口の底辺拡大、生涯スポーツの推進を図るため、広い世代を対象に各種大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、令和3年度も事業の多くが中止となった。

－主な大会（開催されたものを掲載）－

* 第18回かほく市総合体育大会

（総合開会式は中止となったが、特定の大会については感染症対策を徹底して開催された。）

* 令和3年度かほく市学童招待野球大会（令和3年10月23日・24日）

* 第36回石川県中学校選抜剣道大会（令和3年3月19日）

* 第43回加賀能登少年剣道大会（令和4年1月9日）

- ・ 体育協会並びに加盟競技団体（35競技協会）との連携により開催している市総合体育大会及び各種大会については、多くが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる中、一部の競技については感染症対策を徹底したうえで開催された。

* 市総合体育大会 令和元年度（30競技大会）

令和2年度（11競技大会）

令和3年度（17競技大会）

* 競技団体主催大会 令和元年度（12競技大会）

令和2年度（10競技大会）

令和3年度（8競技大会）

- ・ 第73回石川県民体育大会、第18回かほく市制施行記念継走大会は中止となった。

【今後の方向性】

- ・ 次世代アスリートの育成や青少年の競技力向上のため、体育協会やスポーツ少年団の加盟団体等が主催・協力する各種競技大会の開催について継続して支援します。
- ・ 体育協会を通じて各競技団体の活動を支援するとともに、競技者の育成や指導者の養成、競技力の向上と競技人口の拡大を図るための競技会の開催を継続して支援します。
- ・ 県民スポーツ大会（県民体育大会から改称）の令和5年度の地元主会場開催に向けた準備を県スポーツ協会、郡市・市体育協会と連携しながら進めます。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市体育協会に加盟する競技団体数	33 競技	35 競技	35 競技	35 競技	36 競技

② 指導体制の充実

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・指導者育成のため、各競技の公認審判員等の資格取得のための研修・登録費用の一部助成を継続して行い、公認審判員の資格取得を奨励した。

公認審判員取得奨励金支給人数 74人

内訳【令和3年度】 74人（内新規9人）

インディアカ 14人（内新規1人）、トランポリン 30人（内新規3人）、ゲートボール 1人、

陸上競技 16人（内新規1人）、ソフトボール 7人、バスケットボール 3人（内新規1人）

公認スポーツリーダー 3人（内新規3人）

参考 【令和2年度】 76人

- ・アスリートのセカンドキャリアによる市民へのスポーツ指導体制の充実の可能性を見据え、市全体としてのスポーツ振興や活性化につながる「(仮称)かほくスポーツコミッション」の仕組みづくりについて、先進地視察や意見交換を経て検討を行った。

【今後の方向性】

- ・ジュニア期から成年期まで、世代に応じた適切な指導ができる指導者の育成のため、スポーツ関係団体等の指導者公認資格の取得に対し継続して助成します。また、より高い競技力を目指した指導を行うためには、高い専門知識と技術を備えた指導者の育成が必要であることから、日本スポーツ協会または各競技協会の公認スポーツ指導者資格の取得について、関係団体や現在の指導者に対して講習の受講促進・資格の取得奨励を継続して行います。
- ・スポーツ指導者がスポーツに関する幅広い研修に参加できるよう、県スポーツ協会などの他団体が実施する研修会の情報提供も積極的に行い継続して受講を促します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
スポーツ指導員の指導者数	-	5人	8人	14人	20人

③ 競技選手への支援の充実

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・競技スポーツの振興を図るため、全国大会へ出場する選手・監督等に対して激励費を支給した。
- ・選手・監督を激励し意欲向上につなげるため、7月に全国高等学校総合体育大会の出場選手激励会を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により国民体育大会は中止、全国高等学校選抜大会の激励会は出場選手の欠席が相次ぎ中止となった。
- ・平成 27 年度から、市内に住所を有する中学生以下の全国大会への出場者に対し、交通費等の必要経費に対する助成を行っており、保護者の負担軽減を図っている。

－全国大会出場実績－

大会合計：27 大会（その他 9 大会に出場予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止または辞退となった。）

人 数：105 人

〔内訳： 中学生以下（17 大会 41 人）、高校生以上（10 大会 64 人）〕

- ・「かほく市明日のアスリート育成助成」について新型コロナウイルス感染症の影響のためトップアスリートを招聘しての講演会等は開催されなかった。

【今後の方向性】

- ・大会が中止となる中でも懸命に取り組む次世代アスリートへの育成支援のため、全国大会へ出場する選手等に対して激励費の支給を継続して実施します。また、出場選手・チームの健闘を称える報告会等の開催や優秀成績者の表敬訪問、活躍などの広報も積極的に行います。
- ・障がい者のスポーツへの競技意欲を高め、より一層活躍の場を広げることができるよう障害者スポーツ等の全国大会への出場者に対しても激励費の支給を継続し、特別支援学校等にも制度についてのPRを実施します。
- ・スポーツ少年団や競技協会とも連携し、「かほく市明日のアスリート育成助成事業」の活用により、コロナ禍にあっても、トップアスリートに触れる機会を創出し、次世代のアスリート育成に繋がります。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
「かほく市明日のアスリート育成事業」助成件数	—	2件	0件	0件	5件

④ 学校教育と連携した運動習慣の確立と体力の向上

担 当 課

学校教育課・スポーツ文化課

<取組内容・成果>

- ・中学生に対して、各競技団体が主催する大会や教室等への参加を促すなど、団体との連携により部活動の活性化に努めた。

<学校現場での取組>

- ・「部活動ガイドライン」に基づき、各学校において「学校の部活動に係る活動方針」を策定し、休養日や活動時間について指導するとともに、保護者や地域への周知を図った。
- ・部活動外部指導者の活用により、顧問の技術指導の補助や生徒の技能の向上が図られ、各種大会において優秀な成績を収める結果となった。
- ・専門的知識・技術を有する外部指導者を活用し、顧問教諭と連携しながら部活動のコーチ等として技術指導を進めている。

(外部指導員)

高松中学校	ソフトテニス・卓球・剣道・バドミントン	計6人
河北台中学校	バレーボール・バドミントン・卓球・ソフトテニス・バスケットボール	計6人
宇ノ気中学校	バドミントン・ソフトテニス・バスケットボール・バレーボール	計5人

- ・技術指導はもとより、個々の生徒の個性を理解し、顧問や部活動指導員と生徒及び保護者の3者が信頼関係を築けるようなコーチング力を持った指導者を育成するため、中高体連や関係団体等と連携し、スポーツ医科学等を活用した研修や感染症対策を講じたトレーニング方法などの講習会などを開催する計画としていたが、新型コロナウイルス感染症により実施できなかった。

【今後の方向性】

- ・運動部活動の地域移行化については、「部活動あり方検討委員会」を設置し、アンケート調査の実施や検討を行い、今後の方向性について決定します。スポーツ庁の方針である令和5年度から7年度までの改革集中期間の早い段階で休日の運動部活動の地域移行に向けた具体的な取組やスケジュールなどを定めた推進計画を策定していきます。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
部活動指導員等と運動部顧問を対象とした研修会の開催回数	—	0回	0回	0回	年1回以上

基本的方向 5 - (3) スポーツ団体の育成支援と連携

① (仮称) かほく市スポーツ協会設立にむけた調整の実施

担当課	スポーツ文化課
-----	---------

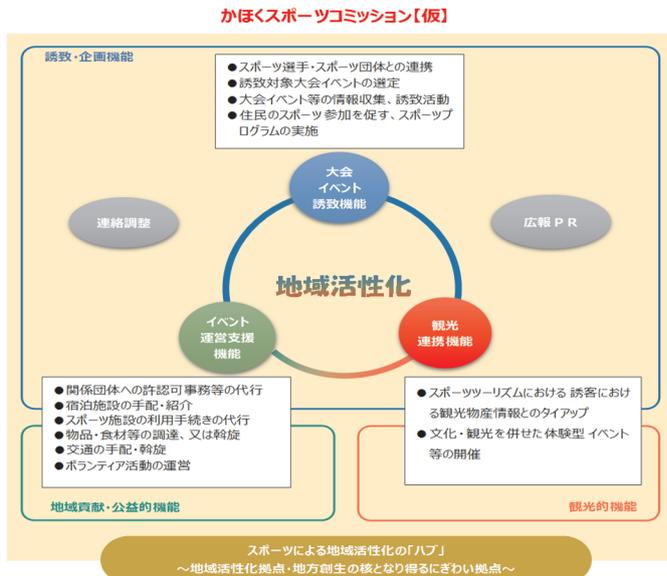
<取組内容・成果>

・スポーツによる地域活性化を進めていくために、ハブとなる機能として位置付けている「かほくスポーツコミッション(仮称)」の設立に向けた調査研究を行い、2回のワークショップによる検討、市商工会、市観光物産協会等への計画素案の提示、先進地視察として、三重県志摩方面、東京方面(スポルテック2021)を実施、また、金沢文化スポーツコミッションとの意見交換を行い、素案を確定した。本素案をスポーツ推進審議会に提示し、意見を聴取し、計画案を確定した。

【今後の方向性】

・計画案をもとに、人材の発掘作業を行うとともに、持続可能な体制を構築するためのキーパーソン(地域おこし協力隊等)と共に行動計画を策定し、令和5年中の試運転に向けた取組案を考案します。さらに、必要な視察を行い、より本市にあった取組、プログラムを提案します。

【かほくスポーツコミッション(仮称)の姿・役割・経緯の概要】



スポーツ振興の観点からは、「スポーツ文化」の確立を目指し、スポーツの持つ力を最大限に活用し、「スポーツ・イン・ライフ」(a)を実現するため、市民自らからスポーツに向き合い、携わり、支えあつて体制を構築するべく、各種団体を結集する組織が必要です。

(a)「スポーツ・イン・ライフ」とは、スポーツが生活習慣の一部となること、そのような姿を指し、一人でも多く

○ステークホルダーとのヒアリング【下記対面ヒア以外に随時デジタル技術等を駆使して実施】

日時	ステークホルダー	備考
2021/9/1(水)	かほく市商工会 専会長	スポーツコミッション概要説明
9/2(木)	かほく市観光物産協会 小泉幹事長	スポーツコミッション概要説明
9/3(金)	コナミスポーツ 大川支配人	ワークショップについての情報交換
9/13(月)	クラブレット 東マネージャー	ワークショップについての情報交換
9/15(水)	かほく市商工会執行部	スポーツコミッション概要説明
9/17(金)	金沢星稜大学 西村教授	基本計画(素案)について意見交換
10/4(月)	金沢星稜大学 西村教授	方針について意見交換
10/5(火)	石川県産業創出支援機構 長田氏	方針について意見交換
10/29(金)	地域おこし協力隊サポートデスク 藤井氏	方針について意見交換
11/4(水)	(一社)志摩スポーツコミッション 大山氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
11/5(金)	南スウチヤ三重 山本氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
11/11(木)	地域おこし協力隊サポートデスク 藤井氏	基本計画(案)について意見交換
11/15(月)	笹川スポーツ財団 清水氏	基本計画(案)について意見交換
11/16(火)	金沢星稜大学 西村教授	基本計画(案)について意見交換
12/1(水)	金沢文化スポーツコミッション 越村氏 里見氏 初道氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
12/1(水)	(一社)日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA) 中山氏 藤原氏 滝田氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
12/1(水)	熊本県八代スポーツコミッション 吉永・向山・那須氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
12/1(水)	茨城県神栖市観光振興課 山本氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
12/1(水)	スポーツコミッション沖縄 平良氏	「先進地視察、セミナー受講等」参照
12/8(水)	RX ジャパン観光スポーツツーリズム EXPO 事務局 千田氏	スポーツツーリズム EXPO について
12/9(木)	金沢星稜大学 西村教授	今後の方針、アドバイザーについて
12/14(火)	金沢文化スポーツコミッション 平代表 越村氏 里見氏	今後の事業連携について
12/17(金)	(公財)笹川スポーツ財団 湯谷氏 小淵氏 清水氏	今後の事業連携について
1/6(木)	(公財)笹川スポーツ財団 湯谷氏 小淵氏 清水氏	進め方・連携・R5MOについて
1/28(金)	(一社)ソーシャルスポーツエンチャブ 馬見塚代表	スボGOMI事業について
2/10(木)	(公財)笹川スポーツ財団 湯谷氏 小淵氏 清水氏	アドバイザー支援について

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
(仮称) かほく市スポーツ協会設立準備検討委員会の立ち上げ	—	素案作成	調査研究	案作成	実施

② スポーツ少年団への支援

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・青少年の体力向上及び心身の健全な育成を図るため、スポーツ少年団活動への支援として、活動補助金の交付と事務支援を行った。
 - * 団員数 30 団体 583 人（うち幼児 1 人） ※市内小学生割合：547/1890 28.9%
 - 【令和 2 年度：30 団体 562 人（うち幼児 5 人）】（令和 4 年 3 月末）
 - * 指導者数 150 人【令和 2 年度：155 人】
 - * 令和 3 年度においては新型コロナウイルス感染症の影響のため多くの事業が中止となった。
 - * 本部役員と連携しコロナ禍での活動方針を定め、子供及び指導者、保護者が安心安全な活動を行えるよう努めた。
- ・スポーツ少年団への加入率（小学生）は市内全児童の約 29%であり、3 人に 1 人の児童がスポーツ活動を行っている。
- ・青少年の健全育成を図るため、夜 9 時までを活動時間とする指導を強化し、規則正しい生活習慣の定着を図った。
- ・スポーツ技術の習得だけでなく、社会性、協調性、規律性を育む場として重要な役割を果たしている。

【今後の方向性】

- ・活動の充実、活性化を図るためのスポーツ少年団への支援を継続し、また、広報・SNS 等により活動を広く市民に PR することで、加入率の向上に努めます。
- ・少子化も一因とされる登録団員の減少に対応するため、各団と連携し、活動が継続できる環境づくりや活動の仕方などの創意工夫に取り組みます。
- ・安全な環境のもとで安心してスポーツに親しむことができる機会を創出します。多種多様な活動を体感することでスポーツの楽しさや素晴らしさを体験するとともに、プロスポーツ等のスポーツ団体などと連携した事業を実施し子供たちのスポーツへの意欲向上を推進します。
- ・学校とスポーツ少年団との連携・対話を進め、子供の健全な成長のためのスポーツ活動に協力し合う体制を引き続き維持していきます。
- ・スポーツ少年団と連携し、スポーツによる地域活性化策の一つとしてジュニアアスリート養成のための事業に取り組めます。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
スポーツ少年団への加入率	32.0%	31.0%	29.0%	29.0%	35.0%

③ 体育協会への支援

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・石川県民体育大会は夏季大会が中止となったが、冬季大会は開催され、スキー競技に参加した。
- ・市総合体育大会については新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、例年より少ないものの、開催時期を年間に設定し、16競技が開催された。
- ・市総合体育大会の競技協会独自の大会についても、多くが中止となる中、8競技において開催され、競技力の向上、スポーツを通じた市民相互の交流につながった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響のため、多くの競技スポーツ大会が中止となったが、感染症対策の支援を行い、市民の体力向上や競技スポーツの普及等を図ることができた。

【再掲】

- ・第72回石川県民体育大会は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。

【参考】令和元年度結果 男子：総合9位、女子：総合4位

【今後の方向性】

- ・本市の競技スポーツ活動を担っている、体育協会並びに加盟競技団体への支援を継続し、協会員による円滑な各種大会の実施及び事業運営の協力支援をします。また、多くの市民が競技スポーツに親しむ機会の拡大を図るとともに競技スポーツ人口の増加を図ります。
- ・市体育協会の本来担うべき役割を再確認するとともに、協会員による組織体制の整備及び今後の自立的な運営を促進するための必要な助言や支援を継続して行います。
- ・今後、市公式インスタグラムなどのSNS媒体を活用し、各競技協会の紹介や大会等の結果、頑張っている活動内容を発信することで、市民の競技スポーツへの興味・関心を高めると共に、新たなスポーツ人材の発掘や市民のスポーツ離れからの脱却を図ります。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
体育協会への加入者数	3,280 人	2,984 人	3,274 人	3,202 人	3,500 人

④ 地域スポーツクラブへの支援

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

- ・総合型地域スポーツクラブ「パレット」との連携により、体育施設の指定管理、スタジオプログラムの運営などを進めた。

【クラブパレット概要】

- * 会員数 3,278 人（令和 4 年 3 月末：イベント参加等含む）
- * 教室（こども向け）65 教室（一般向け）27 教室 その他スタジオ・サーキット事業を実施
- * クラブパレットに体育施設（8 施設）の指定管理を委託した。
- * 宇ノ気体育館のスタジオプログラムや河北台健民体育館のトレーニングジムの運営により市民の体力づくり、健康づくりを進めた。
- * I T-C A T S かほく推進協議会の一員として、プログラミング教室やロボット教室開催時に募集・受付など事務・会計を担っている。プログラミング教室は年間を通して 15 回、K-L a b は 45 回開催した。

【今後の方向性】

- ・総合型地域スポーツクラブの自立的な運営を支えるため、施設の計画的長寿命化改修を進めるとともに、運営改善への助言・指導をし、財政基盤整備を含めたクラブ運営の安定化への支援を行います。
- ・健康増進、介護予防、障がい者スポーツの推進、子育て支援、地域活性化等の公益的な事業をクラブ活動として実現することや、学校や各種団体への指導者派遣など、地域課題の解決にむけた取組を進めていきます。
- ・スポーツ庁の掲げる部活動の地域移行化についての担い手の一つの選択肢として、「部活動あり方検討委員会」で受入れに関する課題等の検討を実施します。
- ・総合型地域スポーツクラブの活動が市民に理解され、子供から高齢者まで幅広い世代の会員の増加につながるよう情報発信を行い、会員確保に向けたPR強化と、魅力あるプログラム開発を実施します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
地域スポーツクラブへの加入者数 (ジョイ・アクロス登録会員含む)	5,228 人	4,746 人	3,572 人	5,211 人	5,500 人

⑤ 高齢者の運動に対する活動支援

担 当 課	スポーツ文化課				
<p><取組内容・成果></p>					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の運動の日常化を促進し、体力・健康増進を推進するため、市内の3つの健康クラブに対する支援として送迎バスの手配、指導者の派遣などを行った。 ・ クラブ活動を通じて、体力・健康づくりと会員の相互交流が図られた。 					
<p>【健康クラブ概要】</p>					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員数 高松健康クラブ 39人 七塚健康クラブ 36人 宇ノ気友垣健康クラブ 53人 ・ 活動内容 週1回活動（軽運動・ダンス・健康相談（長寿介護課による）） ・ 市からの支援内容 <ul style="list-style-type: none"> * 週1回の活動時の送迎バス手配 * 活動への講師の派遣（高松健康クラブ・七塚健康クラブ） * 例年行われている交歓大会については新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。 					
<p>【今後の方向性】</p>					
<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツを多様化する高齢者の生きがいのひとつとして捉え、スポーツ環境の整備充実や生涯スポーツの振興を図るとともに、高齢者のスポーツ活動の普及を強化し、健康寿命の延伸と元気な高齢者の増加に繋がる事業を展開します。 ・ 高齢者がスポーツを通じ、いつまでも元気で明るく生き活きた生活をおくることができるよう、福祉や産業など、幅広い分野と連携した健康づくり事業を進めます。 ・ 高齢者の健康づくりのひとつの施策であるウォーキング事業について、高齢者が意欲を持って参加できるように、関連する健康部局と連携を図りながら取組めます。 ・ 近年の多種多様な運動・スポーツの選択肢の増加に伴い、年々健康クラブの加入者は減少しているが、会員増に繋がるよう健康福祉部局と連携した高齢者の運動機会の確保に努めます。 					
数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
健康クラブへの加入者数	196人	165人	140人	128人	230人

基本的方向 5 - (4) スポーツ活動を支える環境の整備・充実

① スポーツ施設の整備と機能の充実

担 当 課

スポーツ文化課

<取組内容・成果>

- ・市民の生涯スポーツ・競技スポーツの拠点施設として、「(仮称)かほく市総合体育館」の整備を進めており、令和3年度は、基本設計を行った。
- ・宇ノ気南部体育館長寿命化・大規模改修工事を行い、施設の長寿命化、大規模改修を実施したほか、地元の要望でもあった2階和室を「宇ノ気南部学童保育クラブ室」に改修し、既存ストックによる施設の有効活用も図ることができた。
- ・アクロス高松外壁・屋根等長寿命化改修工事（主にジョイ館）を実施した。
- ・宇ノ気総合公園陸上競技場においては、第3種公認更新工事の実施とともに、浄化槽の改修工事、3種公認更新に必要な備品購入（ハードルについては、TOTO助成事業利用）を行った。また、その他社会体育施設において経年劣化による修繕工事を進めた。

【今後の方向性】

- ・「かほく市スポーツ施設整備計画」に基づき、施設の長寿命化や改修を進め、施設や設備の充実と機能の高度化・強化を継続します。また、施設の再配置や統廃合なども可能性を検討し、市内スポーツ環境を整えます。令和4年度は、令和3年度に改訂された「都市公園長寿命化計画」と整合を図るため「かほく市スポーツ施設整備計画」の見直しを行い、令和5年度以降の計画に反映させます。
- ・スポーツによる交流・にぎわい創出の核となる拠点施設、及びトップレベルの大会が開催できる施設、そして、市民がスポーツの場、憩いの場として気軽に利用できる総合体育館の整備については、令和4年度より本体工事に着手し、令和6年4月のオープンに向け整備を進めます。
- ・高齢者や障がい者、子育て世代などのすべての世代が区別なく、日常的に安全かつ快適にスポーツを楽しむことができる施設の整備を目指すとともに障がいの有無を問わず快適に利用できるよう設備のユニバーサル化を進めます。
- ・令和4年度においては、宇ノ気体育センター、宇ノ気スポーツセンターのアリーナ照明等のLED化改修工事を実施します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市内全スポーツ施設の年間総利用者数	55.6 万人	56.4 万人	39.5 万人	43.8 万人	58 万人

② スポーツ施設の効率的な管理・運営

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

<取組内容・成果>

- ・22の体育施設のうち、宇ノ気スポーツセンターを除く21の施設について、指定管理者による管理運営を行った。
(指定管理者・・・かほく市公共施設管理公社、NPO法人クラブパレット、コナミススポーツクラブ・PFUライフエージェンシーグループ)
- ・指定管理については、利用料金制度（施設利用料を指定管理者の収入とする制度）を取り入れ、指定管理者の創意工夫による運営と効率的な管理を継続的に求めている。
- ・総合体育館整備運営事業については、市初となるPFI事業の手法を取り入れ、民間のノウハウや資金を最大限に活用した整備運営を進めている。

【今後の方向性】

- ・体育施設の管理運営については、継続して指定管理者連絡会を開催し、民間活力を導入したサービスの向上と効率的な施設の管理・運営を推進し有益性の高い効率的な運営を図ります。
- ・指定管理者との連携を密にし、公共スポーツ施設の改修箇所の迅速な把握とともに、修繕・改修を速やかに進め、予防保全型の維持管理に引き続き努めていきます。
- ・市民が気軽に利用しやすく、施設が有効に活用できるよう、利用形態や利用率の低い時間帯等を把握し、施設の利用促進に取り組めます。
- ・宇ノ気スポーツセンターについては、民間活力を導入したサービスの向上と効率的な施設管理・運営を図るため、令和4年度から指定管理者制度へ移行します。
- ・河北台体育館については、河北台中学校屋内運動場とし、義務教育施設として活用します。
- ・総合体育館の施設利用料金の設定にあわせ、適正な施設利用料金・受益者負担について改正案を提案します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
市直営のスポーツ施設数	1施設	1施設	1施設	1施設	0施設

③ スポーツによる地域活性化の促進

担 当 課	スポーツ文化課
-------	---------

＜取組内容・成果＞

- ・バレーボールを通じた青少年教育や地域活性化への貢献事業として、P F Uブルーキャッツ主催のバレーボール教室が1小学校で開催され、交流が図られた。

○青猫キャラバン活動（かほく市内のみ記載）

11月9日(火)

高松小学校 6年生 68人

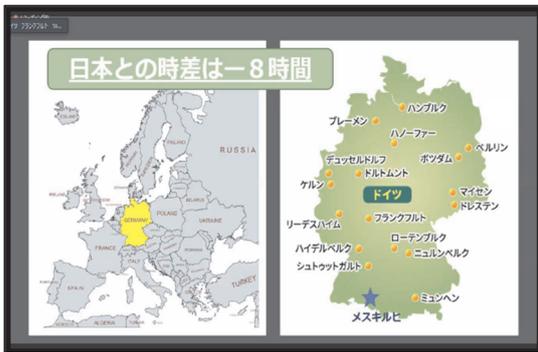
- ・ツエーゲン金沢が開催する「かほく市ホームタウンサンクスデー」は、かほく市・津幡町在住者の無料観覧サービス（400人）が実施され、市民に「みるスポーツ」の機会を提供する取組が行われた。
ホームタウンサンクスデー（2市町合同）9月4日（土） 観客数：2,390人

【今後の方向性】

- ・総合体育館整備と並行しながら、スポーツによる魅力的なまちづくり、地域活性化を進めるため「(仮称)かほく市スポーツコミッション」を設立し、スポーツ合宿や大会イベントの誘致などのスポーツによる交流人口の拡大や地域経済の活性化に繋がる事業を展開します。
- ・地元スポーツチームや商業施設、指定管理者と連携しパブリックビューイングを実施することでホームゲームだけでなくアウェーゲームの観戦を行うことで地元のファンを増やし、スポーツチームによるシティプロモーションを進めます。
- ・今後は市内だけではなく、県内スポーツチームとも連携協力し、地元スポーツチームの活躍が地域の活気に繋がるよう、商業施設や市内学校訪問が実現できるよう調整を図ります。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
トップスポーツチームによる学校訪問等の事業数	1事業	1事業	1事業	1事業	2事業

基本的方向 6 – (1) 多文化共生社会および国際化に対応した教育の充実

① 国際交流事業の推進					
担当課		生涯学習課			
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙に姉妹都市交流に関する記事「写真で見る姉妹都市」を掲載した（4、7、10月号）。 ・中断している姉妹都市交流事業を継続するため、中学生とメスキルヒ市の生徒がEメールで交流する「Eメールエクステンジプログラム」を始め、40人が参加した。 ・市国際交流協会へ補助金を交付することによって活動を支援し、国際交流ひろばや国際理解セミナー等の行事のほか、姉妹都市提携や交流の歴史を振り返る「メスキルヒ市紹介展」が行われた。 ・4市2町（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）の国際交流担当課で構成する石川中央都市圏「国際交流連絡会」において、連絡会をオンラインで3回開催し、情報交換や課題の共有等を行い、下記事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン国際交流クイズ大会が開催された（8月）。 ・金沢国際交流財団主催の「かなざわ国際交流まつり」に連絡会として出展し、パネル展示や圏域内の国際交流事業の紹介などを行ったほか、市観光パンフレットを設置した（10月）。 ・「姉妹都市・友好都市オンライン交流ツアー」において、ドイツ・フランクフルトからの中継でメスキルヒ市を紹介した（3月）。 ・姉妹都市交流事業（青少年派遣）、JAPAN TENTかほく市プログラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 					
					
写真で見る姉妹都市（広報10月号）		オンライン交流ツアーでメスキルヒ市を紹介			
<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市国際交流協会や国際交流に関心がある市民と協力・連携した事業を展開します。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で来日が遅れていたC I Rが着任できたことから、派遣と受入が中断している姉妹都市交流事業については、中学生によるオンラインによる交流会の実施を検討します。 					
数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
姉妹都市メスキルヒ市との相互交流人数（累計）	831人	851人	851人	891人	950人

② 多様な文化に対する理解の推進

担当課

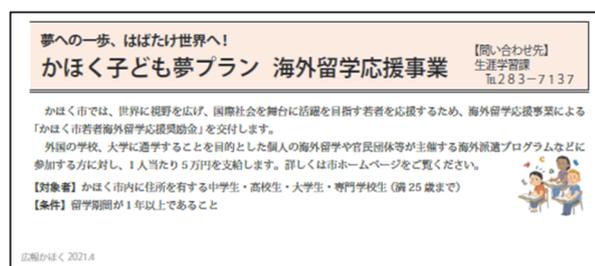
生涯学習課

<取組内容・成果>

- ・市広報紙に多文化共生に関する記事「考えてみよう 多文化共生のこと」を掲載した（6、9、12、3月号）。
- ・国際交流員（CIR）による「kahokuシュタムティッシュ」を開催し、ドイツのボードゲームなどを通じて外国人と交流する機会を設けた（3月）。
- ・グローバルな活躍を目指す若者を応援するための「かほく市海外留学応援奨励金」について、広報紙への掲載で周知を図った（4月号）。
- ・県国際交流協会との共催により、外国につながる子ども支援として、小学校入学前の外国人親子4組に「親子支援教室」を開催した（2から3月までで3回）。
- ・市国際交流協会による市民サロン「K-CAFE」が開催された（毎週火曜日10時～13時）。



多文化共生に関する掲載記事（広報3月号）



かほく市海外留学応援奨励金

【今後の方向性】

- ・市国際交流協会や国際交流に関心がある市民と協力し、市民と外国籍市民との交流の場を創出することにより、国際理解と多文化共生を推進する事業を行います。
- ・令和3年度初めて、県国際交流協会との共催により、外国につながる子どもサポーター養成講座を開催し、無事小学校入学の準備等を整えることができた。今後も外国人の親子が増えることが考えられることから、引き続き外国人の子供を支援する環境の改善を図ります。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
かほく市海外留学応援奨励金の交付件数	—	0件	0件	1件	3件

③ 実践的な外国語教育の充実

担当課

生涯学習課

＜取組内容・成果＞

- ・小学校の「外国語（英語）」教科化に向けて 2017 年度（平成 29 年度）から中央図書館で始まった未就学児・小学生も対象にした「英語のおはなし会」を継続して開催した。
- ・市民の国際交流・国際理解への関心を高めるため、子育て支援センターやこども園に国際交流員（CIR）を派遣しているが、新型コロナウイルス感染症の影響のため一部中止となった。



英語のお話会の様子

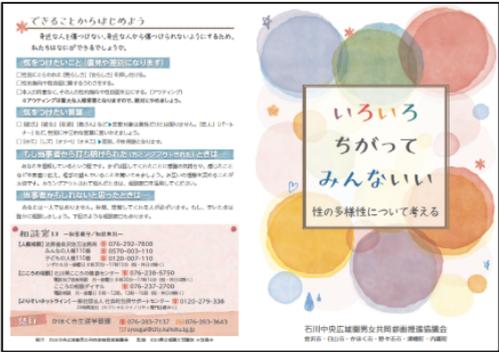
【今後の方向性】

- ・「英語のおはなし会」を継続することにより、幼少期から外国語に親しめる取り組みを推進します。
- ・中央図書館、子育て支援センター、こども園のほか、市国際交流協会等の各種団体とも連携し、国際理解教室などの各種行事に国際交流員を派遣することにより、幅広い世代の市民との交流機会を設け、国際理解や多文化理解を推進します。

数値目標項目	計画策定時 (実績値)	R元年度 (実績値)	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R5年度 (目標値)
国際理解教室等開催数（CIR 派遣含む）	68 回	57 回	2 回	14 回	80 回

基本的方向 6 - (2) 人権教育の推進

① 学校教育における人権教育の推進	
担当課	学校教育課
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科、道徳など教育活動全体を通じた人権教育の推進に取り組んだ。特に人権週間の期間においては、各校で人権講演会を企画するなど、人権意識の高揚を図った。 金沢地方法務局及び市民生活課と連携を図り、「人権の花」運動、人権教室などを実施した。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広く地域の人材を活用した人権教育を推進します。 人権週間における各校の取組が一層充実したものとなるよう努めます。 	

② 社会教育における人権教育の推進	
担当課	生涯学習課
<p><取組内容・成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 石川中央広域圏男女共同参画推進協議会作成の性の多様性について考えるリーフレットを市役所などの公共施設に設置、ホームページへの掲載のほか、石川県作成の人権啓発冊子を設置し、人権意識の啓発を行った。 石川県が作成する人権啓発リーフレット「新成人に贈る人権メッセージ」を第18回成人式の記念集合写真にあわせて配布した。 市民生活課と共催で実施している人権映画上映会は、新型コロナウイルス感染症の影響のため令和2年度から休止している。 	
	
性の多様性について考えるリーフレット	人権啓発冊子
<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により周知活動が中止や規模縮小されてはいるが、引き続き市民生活課との連携による啓発活動を進めます。 幅広い世代の市民が気軽に参加できる映画上映会は有効な啓発機会であるため、継続して行っていきます。 市広報紙への啓発記事の掲載、チラシ等の配布、ホームページへの掲載等による周知活動についても継続して行います。 	

Ⅲ 資 料

1 教育長・教育委員会委員名簿

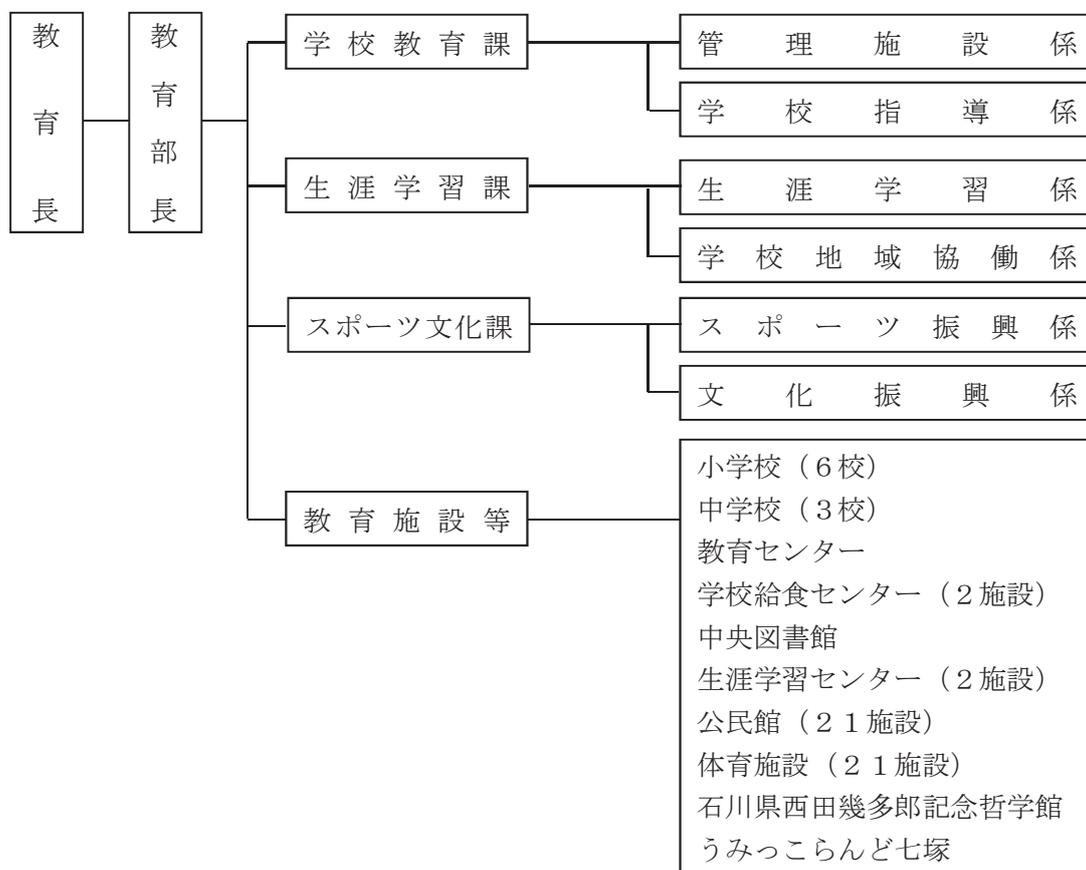
(令和4年5月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	山 越 充	令和 4年4月28日～令和 7年4月27日
教育長職務代理者	粕 野 武 利	令和 2年4月28日～令和 6年4月27日
教 育 委 員	長 柄 悦 子	平成31年4月28日～令和 5年4月27日
教 育 委 員	諸 井 幸 子	令和 3年4月28日～令和 7年4月27日
教 育 委 員	竹 中 健 司	令和 4年4月28日～令和 8年4月27日

職 名	区 分	氏 名	退 任 年 月 日
教 育 委 員	退 任	山 本 滝 男	令和4年4月27日

2 教育委員会の組織

(令和4年4月1日現在)



3 教育施設等

(1) 小学校

(令和4年5月1日現在)

名 称	開設年月日	児童数
かほく市立高松小学校	明治 6年	412人
かほく市立大海小学校	明治 8年 1月	91人
かほく市立七塚小学校	明治 6年 7月 4日	269人
かほく市立外日角小学校	明治 8年 11月 17日	426人
かほく市立宇ノ気小学校	明治 8年 4月 10日	667人
かほく市立金津小学校	明治 6年 11月	63人

(2) 中学校

(令和4年5月1日現在)

名 称	開設年月日	生徒数
かほく市立高松中学校	昭和22年 4月 1日	226人
かほく市立河北台中学校	昭和32年 4月 1日	315人
かほく市立宇ノ気中学校	昭和22年 4月 1日	339人

(3) 教育センター

(令和4年4月1日現在)

かほく市教育センター

(4) 学校給食施設

(令和4年4月1日現在)

かほく市第1学校給食センター	かほく市第2学校給食センター
----------------	----------------

(5) 社会教育施設

(令和4年4月1日現在)

かほく市立中央図書館	かほく市七塚生涯学習センター
かほく市宇ノ気生涯学習センター	石川県西田幾多郎記念哲学館
かほく市うみっこらんど七塚	かほく市高松公民館
かほく市二ツ屋公民館	かほく市長柄町公民館
かほく市木津公民館	かほく市松浜公民館
かほく市遠塚公民館	かほく市浜北公民館
かほく市秋浜公民館	かほく市外日角公民館
かほく市白尾公民館	かほく市森公民館
かほく市指江公民館	かほく市至誠が丘公民館
かほく市気屋公民館	かほく市宇気公民館
かほく市七窪公民館	かほく市宇野気公民館
かほく市内日角公民館	かほく市大崎公民館
かほく市金津公民館	かほく市上田名公民館

(6)社会体育施設

(令和4年4月1日現在)

かほく市高松体育センター	かほく市七塚体育センター
かほく市宇ノ気体育センター	かほく市河北台健民体育館
かほく市宇ノ気南部体育館	かほく市宇ノ気新化館
かほく市七窪体育館	かほく市宇ノ気スポーツセンター
かほく市宇ノ気体育館	かほく市うのけ総合公園陸上競技場
かほく市サッカー・ラグビー競技場	かほく市七塚中央公園多目的運動広場
かほく市高松野球場	かほく市少年野球場
かほく市金津ソフトボール場	かほく市七塚テニスコート
かほく市高松グラウンド・ゴルフ場	かほく市七塚武道館
かほく市高松弓道場	かほく市宇ノ気弓道場
かほく市アクロス高松	

4 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和3年度
事務の管理及び執行の状況に関する点検及び評価報告書

発行年月：令和4年8月

発行者：かほく市教育委員会

学校教育課	TEL 076-283-7136 / FAX 076-283-3643 E-mail : gakkou@city.kahoku.lg.jp
生涯学習課	TEL 076-283-7137 / FAX 076-283-3643 E-mail : syougai@city.kahoku.lg.jp
スポーツ文化課	TEL 076-283-7135 / FAX 076-283-3643 E-mail : spobun@city.kahoku.lg.jp

〒929-1195 石川県かほく市宇野気ニ81番地（かほく市役所内）

URL : <http://www.city.kahoku.lg.jp/>